

関西医科大学 広報



4月20日 記者会見の様子(会見の詳細は次号に掲載)

光免疫医学研究所 開設

Vol.57

CONTENTS

トピックス：光免疫医学研究所開設	P.1	法人：第1回アプリコット賞受賞者決定	P.19
トピックス：関医タワー完成	P.5	大学：退任教授最終講義	P.30
トピックス：入学式	P.6	卒研：卒後臨床研修評価機構（JCEP）による認定	P.33

光免疫医学研究所 開設

関西医科大学附属光免疫医学研究所は令和4年4月に開所となりました。光免疫療法に関する基礎研究と臨床治療のサポートを行う研究所として、光免疫療法に必要な最新の機器を整備し、日本における光免疫療法の中心研究拠点となる研究所を目指していきます。

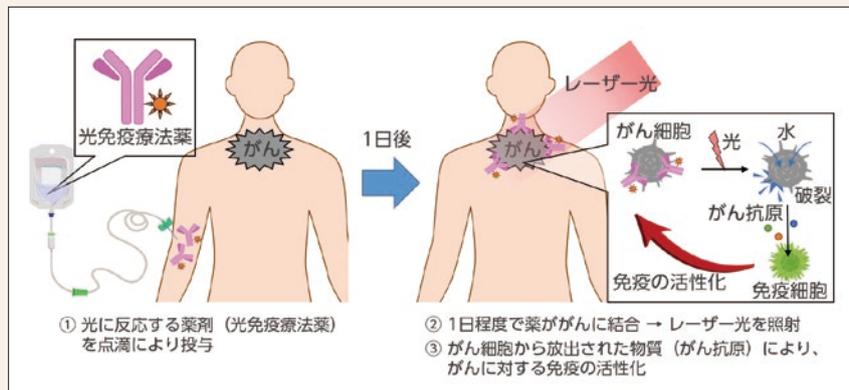
本研究所は枚方キャンパスの医学部棟内に設置されており、基盤開発部門、免疫部門および腫瘍病理学部門の3部門からなり、現在は限られたスタッフでスタートしております。基盤開発部門では光免疫療法用の新規薬剤開発を中心に基礎研究を行います。免疫部門では光免疫療法後に起こる免疫反応について詳細な解析を行います。腫瘍病理学部門では、光免疫療法後の実験動物および患者の組織を比較しながら検討する病理学の研究を行う予定です。今後、適切な人材の確保を進め、最終的には全体として総勢30名程度の規模の研究所となる予定です。また光免疫医学研究所の設備及び機器のさらなる拡充を行い、光免疫療法の研究拠点としてふさわしい環境を構築し、国内外の研究者と共同研究を積極的に行っていく予定です。大学や研究所だけでなく民間企業との共同研究も行うことで、光免疫療法に関連する機器や器具の開発にも貢献できればと考えております。

関西医科大学附属病院には光免疫療法を実施するための部門として光免疫療法センターが設置されています。光免疫医学研究所は、光免疫療法センターと連携しながら附属病院における光免疫療法の臨床治療をバックアップする役割も有しています。例えば、治療を行った患者の組織サンプルを研究所にて詳しく解析することで、光免疫療法後に、がん組織および体内においてどのような変化が起きているかを明らかにすることができます。また研究所の基礎研究により得られた結果を、より良い治療を行えるように附属病院において臨床応用していくことも視野に入れていきます。臨床検体から得られるデータは貴重であり、光免疫療法の発展に大きく貢献すると考えられます。

光免疫療法とは

光と免疫による患者にやさしいがん治療法

光免疫療法(ひかりめんえきりょうほう、英: Near InfraRed Photo-immuno Therapy)とは、光に反応する薬を投与し、薬ががん十分に集まったところでがんに対してレーザー光をあてることで治療する、新しいがん治療法です。日本においては、「切除不能な局所進行又は局所再発の頭頸部癌」に対する治療として令和2年9月に承認され、現在は保険診療として治療を受けることが可能です。





光免疫医学研究所開設にあたって



理事長 山下 敏夫

関西医科大学は研究力の更なる向上のために、1つの領域で「世界でonly oneかつnumber one」となる最先端医学研究所構想を温めてきました。この度、この構想にまさに一致する小林久隆氏という人材と光免疫療法というテーマを得て、本年4月1日に「関西医科大学光免疫医学研究所」を開設いたしました。

「光免疫療法」は、第5のがん治療法として世界的にも注目されており、多くのがん治療法に寄与すると期待されています。この療法の研究拠点を国内に設けることは、本学のみならず医学界の発展にとって非常に有意義であることは言うまでもありません。研究所長には、「光免疫療法」を開発した米国NIH主任研究員の小林久隆先生を招聘し、本学特別教授にも就任いただきました。小林先生を筆頭に、3つの研究部門に約30人もの研究スタッフが勤務する国内屈指の研究拠点となります。同研究所の研究が、遠くない将来、がん患者さんの多くに喜ばれる治療法に生まれ変わっていることを期待しております。

このように本学は、がんに苦しんでおられる一人でも多くの患者さんを救うため、小林先生と共に日々「光免疫療法」の研究と実用に向け推進していきます。また、それらの情報を積極的に発信していきたいとも考えておりますので、今後の研究にご期待ください。

光免疫医学研究所に期待を寄せて



学長 友田 幸一

令和4年4月に開設される関西医科大学附属光免疫医学研究所は、光免疫医学の国内で初めての研究機関となり、基礎から臨床へのトランスレーショナルな研究の拠点となります。

光免疫療法は、光線力学療法と免疫療法を組み合わせた新しい治療法で、第5のがん治療として注目されています。癌細胞に特異的に結合する抗体薬剤に光感受性物質を結合させ体内に注入し、体内外から近赤外線を照射することで、その細胞膜を破壊し癌細胞を死滅させる。それだけではなく放出された癌特異的抗原に対して免疫反応が惹起されるため、原発巣以外の転移巣や再発癌に対しても作用が期待できる治療法です。

研究所は、医学部棟学舎内に約1700m²のスペースを確保し、3つの研究部門からなります。研究所所長には開発者の小林久隆特別教授が、基礎開発部門は花岡宏史研究所教授が、免疫部門には福山英啓研究所教授が、腫瘍病理学部門には来年度に教授が着任予定です。いずれ総勢30名程度の規模で研究所が運営されます。

一方、患者さんへの治療施設として、昨年4月から附属病院内に「光免疫療法センター」が設置されました。当面は頭頸部癌を対象に、本学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の医療チームが治療に当たります。今後、肺癌、大腸癌、乳癌など他の癌への応用も始まるものと思えます。

副作用の少ない夢のある新しいがん治療に向けて、本研究所の意義は大きく、多くの患者さんや家族から大きな期待が寄せられています。

光免疫医学研究所所長就任に際して

関西医科大学光免疫医学研究所所長 小林 久隆



令和4年4月1日に新たに開所します関西医科大学光免疫医学研究所で所長を拝命致すことになりました。

この研究所は関西医科大学で令和4年より全く新たにスタートする研究所です。令和2年9月に世界に先駆けて日本で条件付き認可承認されたがんの近赤外光線免疫療法(光免疫療法)を中心とした研究を行う研究所として日本で初めて設置されました。この光免疫療法の基礎研究から臨床のお手伝いまでを広くカバーするトランスレーショナルな領域を中心とした研究を進めていく大変ユニークな研究所になります。そのため研究所には、基礎開発部門、免疫部門、腫瘍病理学部門の3部門の教室を置いています。

私は、昭和62年に京都大学医学部を卒業し、放射線核医学科に入局いたしました。臨床では放射線診断、核医学、消化器内視鏡の専門医を取得しました。平成7年に学位を修得しその後米国のNational Institutes of Healthに留学した後、ほぼずっとアメリカで研究生生活を行ってきました。現在アメリカでは、National Cancer Instituteでテニユアの主任研究員として研究室を運営しています。この研究室で、平成23年にこの近赤外光線免疫療法を発明し、それ以来この治療の基礎研究と臨床

応用を進めております。

しばしの間は、この研究所が日本の光免疫療法を中心として研究を進められるように運営するとともに、アメリカでの研究開発も並行して進めて参ります。光免疫療法の技術は、がん治療に有用であるだけでなく、基礎研究の新たな1つの手法としても大きく貢献できる手法です。ですので、この研究所では、当大学の他の研究者のみならず世界の研究者や企業と連携してこの技術を用いた研究のネットワークの中心として機能するよう計画を進めています。どうかよろしく願いいたします。

略歴

昭和62年	京都大学医学部卒
昭和63年	国立京都病院放射線科レジデント
平成 7年	京都大学医学研究科博士課程修了、医学博士取得
平成 7年	Visiting post-doctoral fellow, Nuclear Medicine Department, Clinical Center/NIH
平成11年	京都大学医学研究科映像医療学講座助手(日立メデイコ寄附講座)
平成13年	Senior fellow, Metabolism Branch, NCI/NIH
平成16年	Chief Scientist, Molecular Imaging Program, NCI/NIH
平成27年	Senior Investigator (Tenure), Molecular Imaging Branch, NCI/NIH

光免疫医学研究所開設記念新聞広告を掲載しました

2022年4月開設
関西医科大学 光免疫医学研究所

世界を見る景色が変わる。
Nemに近赤外光線免疫療法
を開発しました。

「THE 世界大学ランキング2022」は、国内医療系専門誌「THE 世界大学ランキング」が、教育・研究・国際性などの5つの分野13の指標でスコアを算出してランキングし、毎年発表しているものです。

THE 世界大学ランキング2022
日本で第13位、私学では
第2位に選出されました。

関西医科大学
KANSAI MEDICAL UNIVERSITY

4月2日(土)、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞の全国版朝刊に全面広告を出稿しました。

光免疫医学研究所の開設を記念して、本学の客員教授である山中伸弥氏(京都大学iPS細胞研究所名誉所長)と光免疫医学研究所小林久隆所長の特別対談を企画し、光免疫療法や研究所の意義などについて語っていただきました。国内初の光免疫療法の研究所が開設に至った経緯や、光免疫療法ががん細胞だけを選択的に破壊し正常な細胞を傷つけないダメージの少ない治療法であることなどが語られ、第5のがん治療としての光免疫療法への期待が膨らむ内容となっています。

また広告では、国際化のシンボルとして建設した関医タワーの全体像を掲載。THEランキングにランクインしたことも掲載し、関西医科大学の魅力を全国にPRしました。



光免疫医学研究所 (基盤開発部門) 研究所教授に就任して

光免疫医学研究所 (基盤開発部門) 研究所教授 花岡 宏史



令和4年4月1日付で関西医科大学附属光免疫医学研究所基盤開発部門の研究所教授を拝命いたしました。関西医科大学の新たなブランドとなるような新たな研究所を作り上げていくという重責に身の引き締まる思いです。

私は令和2年7月1日より関西医科大学新医学研究所 (仮称) 設置準備室の室長兼研究所教授として、光免疫医学研究所の立ち上げ業務に従事してきました。枚方キャンパス医学部棟の4階および11階に光免疫医学研究所の設備および機器の整備を行い、令和4年4月に無事に研究所の開所を迎えることができました。光免疫医学研究所は、光免疫療法を中心とした最先端の医学研究を行う施設を目指しており、基盤開発部門では光免疫療法用の薬剤開発や評価等の基礎的な研究を行います。私のこれまでの経験を活かして、世界に誇れる研究所を作り上げていきたいと考えております。

素晴らしい研究環境を有する研究所が完成しました。ここからスタートだと思っております。私自身の研究を推進していくことはもちろんのこと、皆様方と密に連携し共同研究等を行っていくことが重要と考えてお

ります。関西医科大学の発展に貢献できるよう努力する所存ですので、今後ともご指導、御鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

略 歴

平成11年 3月	京都大学薬学部卒業
平成13年 3月	京都大学大学院薬学研究科修士課程修了
平成15年 7月	京都大学大学院薬学研究科博士後期過程途中退学
平成15年 8月	群馬大学大学院医学系研究科バイオイメージング情報解析学講座助手
平成19年 4月	群馬大学大学院医学系研究科バイオイメージング情報解析学講座助教
平成23年 3月	千葉大学大学院薬学研究院分子画像薬品学研究室助教
平成25年 6月	米国国立衛生研究所 (NIH) Molecular Imaging Program Visiting Fellowship
平成26年 4月	千葉大学大学院薬学研究院分子画像薬品学研究室助教
平成26年 8月	群馬大学大学院医学系研究科バイオイメージング情報解析学講座特任准教授
令和 2年 7月	関西医科大学新医学研究所 (仮称) 設置準備室室長兼研究所教授
令和 2年 7月	群馬大学大学院医学系研究科ラジオセラノステイクス共同研究講座客員教授 (兼任)
平成 4年 4月	関西医科大学附属光免疫医学研究所 (基盤開発部門) 研究所教授

就任挨拶

光免疫医学研究所 (免疫部門) 研究所教授 福山 英啓



令和4年4月1日付で関西医科大学光免疫医学研究所免疫部門の研究所教授を拝命いたしました。世界の中でもユニークな研究所の誕生の瞬間に立ち会えることは誠に光栄です。この誕生は、山下敏夫理事長、友田幸一学長が中心となって構築されてきた関西医科大学のフロンティア精神に富む研究地盤と小林久隆先生の培われた研究地盤の貴重な出会いがあったからだと考えます。この研究所の発展に関わる一員として、その責任の重さを感じる一方、新しい挑戦に胸を膨らませております。

私は大学院時代、細胞死の生体における意義に興味を持ち研究をはじめました。特にアポトーシス細胞死では生体内のDNAは積極的に分解されます。このDNA分解酵素のない状態では、消化されないDNAが生体内に溜まり、あたかもウイルスが感染したかのような異常な免疫反応が起こります。この予想外な発見は、私の研究の源流となりました。

その後、DNAに対する抗体産生制御機構、自然免疫炎症、疾患の治療抗体開発、新規ワクチンアジュバント発見など、ワクチン、抗体開発の研究を行って参りまし

た。今後、感染症はもとより、がん、アルツハイマー病といった疾患に対するワクチンや抗体治療によるQOL向上は今後の高齢化社会では必須だと考えます。この分野での発展に貢献し、特に、基礎医学から治療への橋渡しに尽力いたす所存です。

何卒、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

略 歴

平成 5年 3月	大阪大学基礎工学部卒業
平成 7年 3月	大阪大学大学院医学系研究科医学修士課程修了
平成10年 6月	大阪大学大学院医学系研究科医学博士単位取得後退学
平成10年 7月	大阪大学医学部遺伝学教室助教
平成13年 6月	大阪大学大学院医学系研究科博士 (医学) 取得
平成14年 4月	アメリカ合衆国・ニューヨーク ロックフェラー大学博士研究員、後リサーチ・アソシエート
平成18年 8月	フランス・ストラスブール CNRSシニア博士研究員
平成20年12月	フランス・ストラスブール INSERMテニュア上級研究員
平成25年 4月	理化学研究所統合生命医科学研究センター上級研究員
平成28年 8月	横浜市立大学大学院生命医科学研究科客員准教授
平成30年 4月	理化学研究所生命医科学研究センター副チームリーダー
令和 4年 4月	関西医科大学光免疫医学研究所研究所教授

116mに迫る「関医タワー」完成

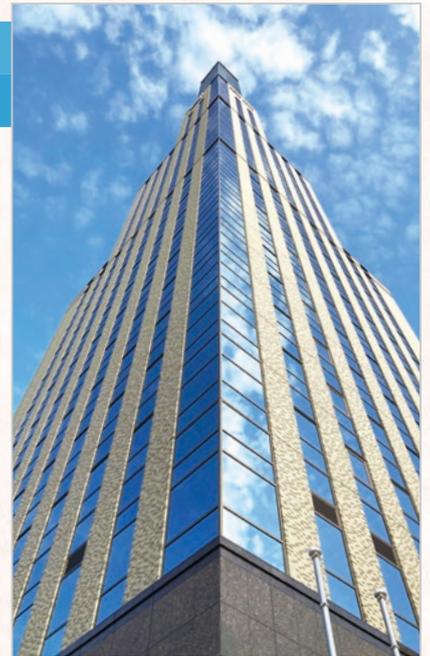
■竣工式

3月18日(金) 11時から、関医タワー竣工式が挙行されました。関医タワー12階会議室で行われた神事には、山下敏夫理事長、友田幸一学長、澤田敏副理事長、神崎秀陽常務理事、衆議院議員中司宏氏、枚方市伏見隆市長、枚方市議会有山正信議長、学校法人大阪医科薬科大学植木實理事長、同佐野浩一学長、学校法人兵庫医科大学太城力良理事長、学校法人大阪歯科大学川添堯彬理事長・学長、学校法人関西外国語大学谷本榮子理事長・総長他33名が出席。

神事終了後はグループに分かれ、11階のホテルフロアや4階の留学生宿舍、3階の会議室などの見学が行われました。



玉串奉奠をする山下理事長



■国際化推進センター (Center for Global Engagement) 開設

令和4年4月に国際化推進センターが開設されました。本学における国際交流の歴史をふり返りますと、平成6年に始まったボランティア組織「国際交流協会」と平成9年に教授会メンバーによる「国際交流委員会」とが統合され、平成23年から「国際交流センター」が誕生しました。これまでの主な活動は海外の施設との人的交流でしたが、新しくできる「国際化推進センター」は、大学、附属病院、広報戦略室ほか関連部門と連携して、医学・看護学・リハビリテーション学並びに医療の高度な国際化を推進するとともに、本学の教職員及び学生のグローバル意識を醸成し、もって法人全体の国際化を推進し、社会的かつ国際的使命を果たすことを目的としています。

そのために、世界中の優秀な人材と交流し教育を行う拠点の形成、国際共同研究や産学連携・知財創出につながる創造性に富む研究等の推進、法人の世界的評価の向上に資する積極的かつ戦略的な国際広報、医療における国際協力や医療技術の普及による国際貢献などに取り組むこととなります。センターは、関医タワー内に設置され、次の4つの部門から構成されます。(1)国際交流・教育部門、(2)国際研究部門、(3)国際広報部門、(4)国際医療支援部門。各部門の主な業務内容は図に要約して示しました。関西医科大学はこれからも「世界に開かれた大学」をめざして進化してまいります。



■関医タワーホテルについて

関医タワーホテルは枚方キャンパスに位置する、附属病院を受診される患者さんや付き添いのご家族のための宿泊施設です。

ホテルには全24室の宿泊室を備え、シングルルーム、ツインルームのほか、バリアフリー対応の部屋も用意し、車いすを利用される方も安心してご宿泊いただけます。宿泊だけではなく、日帰りでもご利用いただけます。

遠方から通院、入院される方への利便性を考慮し、チェックインタイムを15時～22時に設定しました。また、チェックアウトタイムは10時までとし、翌朝の病院の受診にも便利な時間になっています。宿泊料金は1室5,500円からといたしました。オープン日は6月1日(水)を予定しています。



令和4年度関西医科大学入学式



新入生代表による宣誓

4月5日(火) 13時30分から枚方市総合文化芸術センター関西医大大ホールにおいて「令和4年度関西医科大学入学式」が行われました。今年度から3学部合同(医学部、看護学部、リハビリテーション学部および大学院医学研究科、大学院看護学研究科)で執り行われ、362名の新入生(医学部127名、看護学部105名、リハビリテーション学部102名、大学院医学研究科18名、大学院看護学研究科10名)の新入生が医療の道への第一歩を踏み出しました。

入学式学長式辞

学長 友田 幸一

桜花満開の今日、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。

今年は、医学部・看護学部・リハビリテーション学部と大学院医学研究科、看護学研究科の合同の入学式となりました。本会場は昨年完成したばかりで、この関西医大大ホールで初めて入学式を挙行できますことは記念すべきことでもあり喜びに堪えません。

本日ここに、医学部127名、看護学部105名、リハビリテーション学部102名と大学院医学研究科18名、看護学研究科10名の計362名の新入生の皆さんを迎えることは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。また本式典にご臨席を賜りましたご来賓の皆様には、誠に厚く御礼申し上げます。

皆さんは、厳しい受験の難関を突破して見事に合格されました。ご本人の努力と、皆さんの勉強と生活を支えてこられたご家族や関係の皆様には、心からお祝いを申し上げます。

ただ、新型コロナウイルス感染が収まらない中、本式

典を縮小して行わなくてはならなくなりましたこと、大変残念な思いであります。特に学業や生活を支援してこられたご家族、関係の皆様には、式典への参加を自粛していただくこととなり、大変申し訳なく思っております。

さて、皆さんは入学の喜びとともに、これから始まるキャンパスライフに大きな期待を抱いておられることでしょう。そこで母校となる関西医科大学について紹介します。

本学は昭和3年(1928年)に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、昭和29年(1954年)に男女共学制を取り現在の関西医科大学となりました。今年で創立94年を



式辞を述べる友田学長

迎え、医学部卒業生総数は8,682名からなります。また看護学部は、昭和7年の附属看護婦養成所を前身とする看護専門学校が89年にわたる長い歴史において5,600名を越える卒業生を送り出し、その後看護学部を引き継がれ今年1期生96名が初めて卒業しました。このように本学は輝かしい歴史と伝統のある大学です。

本学はこれまでさまざまな事業を展開してきました。昨年新たにリハビリテーション学部が開設され看護学部を含む医療系複合大学となりました。新入生の皆さんを加え3学部の学生総数は1,353名となり、医学部・看護学部は枚方キャンパスで、リハビリテーション学部は牧野キャンパスで勉学に励むこととなります。

新事業として、今年完成したばかりの関医タワーには、国際化推進センター、留学生寮、患者家族の宿泊施設が整備されオープンします。また4月からはアメリカ、NIH研究所の小林久隆教授を招き、国内で唯一の光免疫医学研究所が設置され、「第5のがん治療」として注目される光免疫療法の研究と診療が本格的に始動します。

一方、本学は国際的にもTHE世界大学ランキングに5年連続でランクインし、今年は世界で601～800位、国内の私立大学で第2位、関西の私立大学で第1位となりました。この秋からは新たに国際大学院が開講するなど「世界に開かれた大学」を目指しています。

さて、医療系大学にとり附属病院は医学・看護学・リハビリテーション学教育の原点であり、患者さんから学ぶ場となります。大学紹介ビデオでご覧になったように、本学には附属の4病院とクリニックがあり、総病床数は1,521床になります。これらすべての病院は、先進医療だけでなく介護・福祉、リハビリテーションなど地域包括医療体制を整え、実践している唯一の大学病院で、これからの「人生100年時代」に向けて健康長寿を推進していきます。これらの施設が皆さんの臨床実習教育の、そして将来の医師・看護師・理学・作業療法士としての活躍の場になります。このように皆さんが入学する関西医科大学は、大きく変革を遂げ、その後も躍進を続けていることをしっかりと頭に入れておいてください。そして6年後には創立100周年を迎えることとなります。

大学院に入学された皆さんは一つ上の学歴をめざしてこれから研究活動が始まりますが、修士・博士の学位を取ることが最終目的ではなく、研究を通して得た高度な知識や経験、苦勞が真の価値であり、常に研究マインド

を持った医人をめざしてください。

さて、皆さんは「病で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの医学・医療の世界を選んだことと思います。人の命を預かる私達に妥協は許されません。また今回の新型コロナウイルスのように新たな病原体との戦いは人類の永遠の課題であり、私達は常にその最前線で患者さんの診療に当たらねばなりません。初心の気持ちを決して忘れることなく、病める人の気持ち・感情に共感でき、常に寄り添える医療人になって欲しいと思います。

本学の建学の精神は「慈仁心鏡」、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成するで、学歌のぞみの3番に出てくる、「慈仁(めぐみ)を心の鏡となして、」に由来しています。この精神に則り、これからの学生生活を通して、教養を深め、医療人として必要な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけてください。さらに自分のキャリアアップのために研究心や国際感覚も身に付けて欲しいと思います。特に医学生は、医学の父と称される古代ギリシャの医師、ヒポクラテスの誓いを、看護学生は、看護学の母と称されるイギリスのナイチンゲールの精神を、そしてリハビリテーション学生は、リハビリテーション医学の父と称されるアメリカの軍医ハワード・ラスク博士のリハビリの概念をしっかりと学んで欲しいと思います。

一方、大学というところは皆さんの自主性、主体性を引き出す場でもあります。持っている才能や個性にさらに磨きをかけてください。また本学にはたくさんのクラブ活動があります。部活動を通じて、多くの友人と素晴らしい人間関係を築いてください。但し、勉学と自由活動のバランスが重要で、自分の能力を常に把握し、本来学ぶべき学問の勉強を最優先することを忘れないでください。

最後に、大学生であると同時に社会人であるという自覚を持って行動してください。まず挨拶をしましょう。挨拶の「あ」は、明るく、「い」は、いきいきと、「さ」は、さわやかに、「つ」は、常に自らからです。これは礼儀の基本です。そして身だしなみにも注意してください。本当の自由はきちんとした規律の中にこそあることを忘れないでください。そして関西医大人としての誇りと気品を持って精励されることを願い、私の式辞とします。本日はご入学誠にありがとうございます。

内科学第一講座主任教授に就任して

内科学第一講座主任教授 伊藤 量基



令和4年4月1日付で、関西医科大学医学部内科学第一講座の主任教授を拝命いたしました。本講座は、本学創立2年後に開講した歴史ある内科学教室(血液腫瘍内科、呼吸器・感染症内科、リウマチ膠原病科)です。このたび私が第6代主任教授として講座を引き継がせて頂くことになりました。これまでの諸先生方の築き上げられた伝統と、さらなる発展に向けての重積に身の引き締まる思いです。一言で言うならば、太宰治の「葉」でも有名な「選ばれてあることの恍惚と不安と二つ我にあり」に尽きます。

私は平成4年に関西医科大学医学部を卒業後、研究、臨床、教育と、まさに脇目もふらず、がむしゃらに走り続けてきました。私の専門は、研究では「樹状細胞」という免疫学、臨床では、造血器腫瘍治療です。この分野では、最先端の医療を実践してまいりました。私の医師としての歴史は関西医大内科学第一講座での全力疾走の歴史であり、そして充実の一文字につきます。そしてこれからは、内科学第一講座の「充実」に人生を捧げたいと思っています。今後、優れた研究者や臨床医の輩出、優秀な人材をバックアップする環境を整備

出来るよう、そして診療・教育・研究の三本柱が、密接かつ強固にリンクした組織となるように尽力したいと考えております。これからも教職員一同とともに、内科学第一講座のさらなる進歩・発展に全力で取り組みたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

平成 4年 関西医科大学卒業後、関西医科大学附属病院 内科入局
 平成 6年～8年 倉敷中央病院 血液内科
 平成 8年4月～12年3月 関西医科大学大学院医学研究科博士課程(内科系内科学1専攻)
 平成12年～14年 日本学術振興会 特別研究員
 平成15年1月～18年2月 MD Anderson Cancer Center, Department of Immunology, post-doctoral fellow
 平成18年 3月～ 関西医科大学 第一内科 助手
 平成19年 4月～ 関西医科大学 第一内科 講師
 平成23年 4月～ 関西医科大学 第一内科 准教授
 同年 4月～ 関西医科大学附属滝井病院(現・総合医療センター) 血液呼吸器膠原病内科部長
 平成24年 7月～ 関西医科大学附属病院 勤務
 平成27年 2月～ 関西医科大学附属病院 血液腫瘍内科 病院教授
 令和 4年 4月～ 関西医科大学 内科学第一講座 主任教授

呼吸器腫瘍内科学講座主任教授に就任して

呼吸器腫瘍内科学講座主任教授 倉田 宝保



令和4年4月1日付で関西医科大学呼吸器腫瘍内科学講座の主任教授を拝命いたしました。本講座は原発性肺がんを中心とした胸部腫瘍の診療や研究、肺がんを専門とする医師の育成や教育を担う日本初の講座です。その初代主任教授として教室を主宰させていただく機会を頂きましたことは大変光栄であると同時に身の引き締まる思いでございます。

私は平成2年に広島大学医学部を卒業した後、国立がんセンター中央病院や近畿大学医学部腫瘍内科学講座などの肺がん診療において日本のリーダー的施設で日々研鑽を積んで参りました。特に肺がんの標準的治療確立のための臨床研究および新規薬剤の開発治験を手掛け、現在の肺がん診療の礎作りの一助を担ったことは大変光栄なことでした。平成25年4月に本学に着任後もこれまでの経験を活かし、肺がん分野の治療や研究を推進し、国内外において専門施設として認識されるに至りました。今後高齢化が進みがん患者が更に増加することが予想されます。

当科が担う役割は大きくなると思われ、地域の先生方との連携を強化し北河内地区におけるがん診療の拠点となるべく尽力します。日本初の講座の名に恥じぬよう日々精進して参りますので、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

平成 2年 広島大学医学部医学科 卒業
 平成 2年 広島大学医学部附属病院内科 研修医
 平成 5年 国立がんセンター中央病院肺内科 レジデント・チーフレジデント
 平成 9年 広島大学医学部第2内科 医員
 平成13年 近畿大学医学部第4内科 助手
 平成14年 近畿大学医学部腫瘍内科 講師
 平成17年 兵庫県立成人病センター腫瘍内科 医長
 平成18年 大阪医科大学化学療法センター 講師
 平成21年 近畿大学医学部腫瘍内科 准教授
 平成25年 関西医科大学内科学第一講座 診療教授
 関西医科大学附属病院 呼吸器腫瘍内科 科長
 令和 4年 関西医科大学医学部呼吸器腫瘍内科学講座 主任教授

心療内科学講座主任教授に就任して

心療内科学講座主任教授 蓮尾 英明



令和4年4月1日付で関西医科大学心療内科学講座の主任教授を拝命致しました。本講座は平成5年に初代中井吉英教授により開設され、2代目の福永幹彦教授が牽引してこられました。その後を引き継がせて頂くことは、大変光栄であると共に、重責に身の引き締まる思いであります。

心療内科は、内科疾患の診断や治療において、身体機能、行動、心理社会的因子を重視し、全人的医療を提供する科です。臓器別ではない幅広い疾患に対して診療を行います。特に治療困難な機能的疾患や慢性疼痛の患者さんの診療を行っています。本講座では、同様なアプローチを行う総合診療科(講座内診療科)、緩和ケアセンター(専従医派遣)と連携しています。私は、この3つの領域の臨床、教育、研究に携わっており、特に全人的医療が担がん患者の分子細胞レベルにも好影響を与えることを示唆する研究をしていきたいと考えております。

心療内科の課題は、臓器専門性がなく、内科系講座としての認知

度が低いことです。その現状を真摯に受け止めつつ、大学病院における横断的内科診療としての専門性をより高めてまいります。最先端ではありませんが、医療の本質ともいえる診療を丁寧にしていくことで、本学の教育の理念である地域社会に貢献する人間性豊かな良医を育成してまいります。そのためにも、地域の先生方、他と密な連携をとらせて頂けるよう努めます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

平成15年 関西医科大学卒業 関西医科大学医学部心療内科学講座 入局
 洛和会音羽病院総合診療科 研修医
 平成17年 関西医科大学医学部心療内科学講座 医員
 平成20年 川崎医科大学附属病院総合診療科 医員
 平成21年 岡山済生会総合病院緩和医療科 医員
 平成23年 赤磐医師会病院消化器内科 医員
 平成25年 国立がん研究センター東病院緩和医療科 医員
 平成27年 関西医科大学医学部心療内科学講座 助教
 平成31年 関西医科大学医学部心療内科学講座 講師
 令和 4年 関西医科大学医学部心療内科学講座 主任教授

附属病院心臓血管外科(血管外科担当) 理事長特命教授に就任して

附属病院血管外科理事長特命教授 善甫 宣哉



令和4年4月1日付けで附属病院血管外科理事長特命教授を拝命いたしました。平成28年12月16日付で附属病院 血管外科 診療教授として関西医科大学に赴任し、胸部ならびに腹部大動脈瘤、B型大動脈解離に対する血管内治療(ステントグラフト内挿術)を中心に診療を行って参りました。数年間血管外科医が不在で、赴任後はひとり診療科として、孤軍奮闘してきましたが、心臓血管外科湊直樹教授、岡田隆之准教授のご支援により、平成29年は152例の血管外科手術を行うことができました。平成30年10月より総合医療センター血管外科駒井宏好診療教授のご高配により二人体制となり、令和3年はCOVID-19パンデミックにもかかわらず約倍増の285例まで手術症例を増やすことができました。特に、胸部ステントグラフト内挿術の実施医、指導医を新たに4名認定させることができました。さらに、閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療のみならず、distal bypassが増加してきました。幸いにも、5年間の間に本学出身者が2名入局し血管外科を研鑽し

ています。スタッフを一人でも増やし、関西医科大学附属病院の血管外科の血流を将来にわたって絶やさないような体制を作ることが、今後の目標です。今後とも、皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

略 歴

昭和56年 3月	筑波大学医学専門学群卒業
昭和56年 4月	山口大学医学部附属病院医員(第1外科)
昭和61年 8月	山口労災病院外科医師
昭和63年 9月	山口大学医学部附属病院助手(第1外科)
平成 3年 9月	米国州立ワシントン大学血管外科研究員
平成 6年 7月	山口大学医学部附属病院講師(第1外科)
平成10年 8月	山口大学医学部助教授(外科学第1講座)
平成14年 7月	山口県立中央病院外科部長
平成15年11月	山口大学医学部臨床教授
平成21年 4月	山口県立総合医療センター外科診療部長
平成28年12月	関西医科大学附属病院血管外科診療教授
令和 4年 4月	関西医科大学附属病院血管外科理事長特命教授

附属病院脳神経外科(脳血管内治療科担当) 理事長特命教授に就任して

附属病院脳神経外科(脳血管内治療科担当) 理事長特命教授 天神 博志



この度関西医科大学附属病院脳神経外科の理事長特命教授を拝命いたしました。医学部を卒業後脳神経外科に所属、その後さまざまな規模、背景の病院で勤務してきましたが一貫して脳血管障害の臨床、研究、教育に携わってきました。脳神経外科血管障害治療は私が医師となった頃とは様変わりしました。最も大きな変化は血管内治療で多くの脳血管障害患者を治療できるようになったことです。その中で早くから血管内治療に取り組み機会を得ました、そして血管内治療の有用性とその限界について多くの経験をしてきました。血管内治療、開頭手術が持つそれぞれの良い点を活かした治療を行ってまいりたいと思います。血管内治療、開頭手術共にIT技術の発達を基盤とし画像重ね合わせなど急激に進歩していくものと考えます。その進歩に少しでも貢献できればと思っています。脳卒中は寝たきりになることが多い疾病で社会問題です。

発症後約3分の1の患者さんは自宅退院できません。そこで予防が重要と考えスクリーニングにも取り組んでいます。私の持つ知識や経験を少しでも関西医科大学脳神経外科医局員や世の中のために役立てることができればありがたいことだと思っています。

略 歴

昭和56年	京都府立医科大学卒業
昭和62年	京都府立医科大学脳神経外科学教室 助手
平成 3年	Mayo Clinic, Neurosurgery Visiting Scientist
平成 9年	京都府立医科大学脳神経外科学教室 講師
平成10年	京都府立与謝の海病院脳神経外科 医長
平成13年	京都府立与謝の海病院 診療部長
平成18年	京都第二赤十字病院脳神経外科部長
平成29年	静岡赤十字病院脳神経外科部長
令和 2年	栄公会佐野記念病院 脳血管センター長
令和 4年	関西医科大学附属病院脳神経外科(脳血管内治療科担当)理事長特命教授

香里病院腎臓病センター理事長特命教授に就任して

香里病院腎臓病センター理事長特命教授 高橋 延行



令和4年4月1日付けで香里病院腎臓病センター理事長特命教授を拝命致しました。私は昭和56年に関西医科大学を卒業後、関西医科大学第二内科学講座に入局しました。循環器内科医として心臓救急に携わりたく、CCUのスタッフとなり臨床および研究に従事しました。糖尿病患者の左心機能障害に関する研究により学位を取得後、平成3年から3年間米国ハーバード大学ブリガム・アンド・ウィメンズ病院内科心臓血管部門に留学し、心肥大・心不全におけるTGF-βの役割に関する研究を行いました。帰国後は新香里病院、関西医科大学附属香里病院・附属枚方病院を経て平成22年より現在の香里病院に勤務しております。最初に糖尿病患者を研究対象に選んだことから糖尿病患者を診る機会も増えて来ました。糖尿病から末期腎不全に至る患者さんは心血管疾患の合併が多く、現在腎臓病領域を中心に仕事をしていますが、今まで学んできた循環器病、糖尿病の知識が非常に役立っております。平成22年に香里病院が開院する際、西日本で初めて大学病院が行う維持透析施設を開院し、以来約12年間医師、看護師、臨床工学技士が力を合わせてチーム医療を行い順調に歩んでまいりました。この

たび山下理事長のご指導の下キャリアを継続する機会をいただき、引き続き香里病院の透析および腎臓病診療に力を注いで行きたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

略 歴

昭和56年	関西医科大学医学部卒業
昭和57年	関西医科大学第二内科に入局
昭和58年	国家公務員等共済組合連合会新香里病院内科出向
昭和59年	関西医科大学大学院博士課程入学 関西医科大学附属病院第二内科CCUに勤務
昭和63年	関西医科大学大学院卒業 簡易保険大阪総合検診センター出向
平成 3年	医学博士号取得 米国ハーバード大学ブリガム・アンド・ウィメンズ病院内科心臓血管部門に留学
平成 6年	国家公務員等共済組合連合会新香里病院内科循環器科副医長
平成 9年	関西医科大学附属香里病院内科助手
平成13年	関西医科大学附属香里病院内科講師
平成18年	関西医科大学附属枚方病院第二内科病院准教授・血液浄化療法部副部長
平成22年	関西医科大学香里病院内科准教授・血液浄化療法部部長・地域医療連携部部長
平成24年	関西医科大学香里病院内科病院教授・血液浄化療法部部長・地域医療連携部部長
平成30年	関西医科大学香里病院内科病院教授・腎臓病センターセンター長(血液浄化療法部より名称変更)・地域医療連携部部長
令和 4年	関西医科大学香里病院腎臓病センター理事長特命教授

病理学講座・総合医療センター病理診断科学長特命教授に就任して

病理学講座・総合医療センター病理診断科学長特命教授 植村 芳子



令和4年4月1日付で、病理学講座・総合医療センター病理診断科 学長特命教授を拝命いたしました。関係各位の先生方には心より感謝いたします。

私は昭和56年に関西医科大学を卒業後、旧病態検査学講座、中検病理部門にて病理診断学の研修を開始しました。鹿児島市立病院在職中には、特徴ある形態の胃癌にin situ hybridizationでEBVの関与を証明し、分子病理学的病因に基づく病理形態像の奥深さに心惹かれ、病理診断への大きな意識付けとなりました。本学に戻り旧病理学第二講座で基礎的研究に従事した後、平成18年附属病院開院からは、診療教授として病理診断部門の構築に携わり、そこで多岐、多彩な病理診断を経験することができて、私の大きな財産となりました。日本の病理専門医数は絶対的に不足しています。薦幸治教授の主宰される病理学講座では病理専門医取得とともに、病理形態学的知見から分子病理学的解析まで、実践的研究が可能です。今後はこの幅広い病理学の魅力と重要性を広く伝えて、臨床各科との連携を深め、病理診断の精度向上に努めていきたいと考えています。

また、私は令和2年4月に創設されたオール女性医師キャリアセンターのセンター長を拝命しました。女性医師がキャリアを継続できる職場環境の整備が、男女を問わずすべての医師の環境整備に繋がると考えて活動を行っています。今後は病理学領域を始め、与えられた職責を十分に果たせるよう精進する所存でおります。これからどうぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

略 歴

昭和56年 3月	関西医科大学卒業
昭和56年 6月	関西医科大学病態検査学講座 助手
昭和60年 7月	関西医科大学付属香里病院中央検査部 助手
昭和63年 5月	鹿児島市立病院病理研究検査室勤務
平成 6年 4月	関西医科大学病理学第二講座 助手
平成 7年12月	関西医科大学病理学第二講座 講師
平成12年11月	関西医科大学臨床検査医学講座 助教授
平成18年 1月	関西医科大学臨床検査医学講座 診療教授 病理診断科科长
平成29年 4月	関西医科大学総合医療センター 病理診断科科长
令和 2年 4月	関西医科大学総合医療センター 臨床検査医学科科長
令和 4年 4月	関西医科大学病理学講座・総合医療センター病理診断科学長特命教授

総合医療センター小児科診療教授に就任して

小児科学講座小児科（総合医療センター）担当診療教授 石崎 優子



令和4年4月1日付で関西医科大学小児科学講座小児科（総合医療センター）担当診療教授を拝命いたしました。

私は平成元年に関西医科大学を卒業致しました(57回生)。そして本学にて小児科研修の後、子どもの心身症を専門と定め、平成3年秋に東京のLCCストレス医学研究所・心療内科の桂戴作先生の下で心身医学の研修を開始しました。それに併行して東京大学医学部母子保健学教室(現・発達医科学教室)の研究生として日暮 眞先生にご指導を頂き、平成7年に心身医学科(心療内科)認定医と学位を取得しました。平成7年夏から米国ボストンに留学し、ハーバード大学公衆衛生大学院で児童精神科疾患の疫学を学び、ボストン小児病院の思春期科外来で思春期の臨床を垣間見る機会を頂きました。帰国後は心身医学科の指導医取得を目指し、平成13年に取得。その後本学小児科に戻り、平成13年から当時の関西大附属病院(現・総合医療センター)で小児心身症と発達障害にかか

わる診療、研究を続けてまいりました。現在は思春期の自律神経疾患や発達障害、そして小児の摂食障害の近畿の中核的な役割を担っていると自負しています。今後は、小児科医として子どもの心身の健全育成と明るい未来の創造に向けて、より一層努力精進いたす所存です。引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

略 歴

平成元年 3月	関西医科大学卒業
平成元年 6月	関西医科大学附属病院小児科医員
平成 3年 5月	河内総合病院 小児科医師
平成 3年10月	LCCストレス医学研究所医員
平成 7年 8月	米国留学
平成 8年 9月	LCCストレス医学研究所勤務医
平成13年 2月	関西医科大学小児科学講座医員
平成13年10月	関西医科大学小児科学講座非常勤講師
平成19年 5月	関西医科大学小児科学講座講師
平成24年 2月	関西医科大学小児科学講座准教授
平成26年 4月	関西医科大学附属滝井病院(現総合医療センター)病院教授
令和 4年 4月	関西医科大学小児科学講座小児科(総合医療センター)担当診療教授

附属生命医学研究所ゲノム解析部門研究所教授に就任して

附属生命医学研究所ゲノム解析部門研究所教授 日笠 幸一郎



令和4年4月1日付で関西医科大学附属生命医学研究所ゲノム解析部門研究所教授を拝命いたしました。平成30年4月に新設されましたゲノム解析部門の学長特命教授として着任してから4年間、本学の研究、教育、運営に携わることで充実した日々を過ごすことができ、ご支援いただいた先生方に心より感謝申し上げます。5年目の節目に際して新しい職務をいただき大変光栄であるとともに、重責に身の引き締まる思いでございます。当部門は、ゲノム情報を礎としたインフォマティクスを専門としています。

着任後多くの先生方から部門の専門性についてご理解を賜り、現在30を超える基礎・臨床講座との共同研究に発展しています。教育面では、平成31年に開設されました「病因と病態A2(2)」を担当し、学部生への「遺伝医療・ゲノム医療」の教育、また令和3年に設置された修士課程におきましては、「ゲノム医科学分野」の一つの柱として掲げていただき、将来のゲノム医学研究を主導あるいは支援できる人材の育成に尽力しております。運営では、がんゲノム医療体制の構築、バイオバンクの設置、ヒトゲノム遺伝子解析研究倫理審査

などに関わらせていただき様々な経験を得ることができました。今後も、これまでの経験を活かし、本学のより一層の発展を目指して邁進する所存でございますので、引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

略 歴

平成 8年 3月	九州大学理学部物理学科卒業
平成15年 3月	九州大学医学系学府分子生命科学専攻博士課程修了
平成15年 4月	九州大学生体防御医学研究所遺伝情報実験センター 産学官連携研究員
平成17年 4月	九州大学生体防御医学研究所遺伝情報実験センター 学術研究員
平成21年 4月	独立行政法人理化学研究所ゲノム医科学研究センター 研究員
平成22年 4月	東京大学大学院新領域創成科学研究科情報生命科学専攻 特任研究員
平成24年 4月	京都大学大学院医学研究科附属ゲノム医学センター 特定助教
平成25年 4月	京都大学大学院医学研究科附属ゲノム医学センター 特定講師
平成26年 4月	京都大学学際融合教育推進センター・スーパーグローバルコース 特定講師
平成28年 4月	京都大学学際融合教育推進センター・スーパーグローバルコース 特定准教授
平成30年 4月	関西医科大学附属生命医学研究所ゲノム解析部門学長特命教授
令和 4年 4月	関西医科大学附属生命医学研究所ゲノム解析部門研究所教授

歯科・口腔外科・口腔ケアセンター・センター教授に就任して

附属病院歯科・口腔外科・口腔ケアセンター担当教授 児島 由佳



令和4年4月1日付けで関西医科大学附属病院歯科・口腔外科・口腔ケアセンター教授を拝命いたしました。

歯科口腔外科は、平成25年9月に新設され、当時は歯科医師1名、歯科衛生士2名からスタートしました。その後、歯科医師や歯科衛生士も増員され、この度、新しくセンターとなっております再出発できますことを、皆様にご感謝申し上げます。

私は、平成7年に大阪大学歯科学部を卒業し、一旦開業医にて勤務を致しました。

その中で高齢者や有病者の治療に携わる中、全身管理の重要性を感じ、平成8年京都大学歯科口腔外科へ入局致しました。それ以来臨床ばかりに携わってまいりました。関西医科大学にご縁があり歯科口腔外科を立ち上げて以来、皆様を支えられ、色々なことを学ばせていただきました。現在では日本医科歯科連携医療グループの発起人の一人として多施設共同研究を行い、主に顎骨壊死に関する臨床研究に力を注いでおります。

医科歯科連携、また地域連携を大切にしながら、これからも医科の先生がたや地域の先生がたを協力し、歯科・口腔外科・口腔ケアセンターを発展させていきたいと存じます。本年度から歯科医師臨床研修も始まります。臨床・研究・教育にも力を入れて日々邁進してまいります。

どうぞ今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

略歴

平成 7年 3月	大阪大学歯学部卒業
平成 7年 4月	増田歯科医院勤務
平成 8年 4月	京都大学医学部附属病院 歯科口腔外科 入局
平成 9年 4月	京都第一赤十字病院 歯科口腔外科 医員
平成13年 4月	新香里病院 歯科口腔外科 医員
平成17年 4月	宇治武田病院 歯科口腔外科 医長
平成19年 4月	枚方公済病院 口腔外科 医長
平成25年 8月	関西医科大学附属枚方病院耳鼻咽喉科 歯科・口腔外科 診療講師
平成30年 7月	関西医科大学附属病院耳鼻咽喉科 歯科・口腔外科 講師
令和元年 8月	関西医科大学附属病院耳鼻咽喉科 歯科・口腔外科 准教授
令和 4年 4月	関西医科大学附属病院歯科・口腔外科・口腔ケアセンター担当教授

天満橋総合クリニック院長に就任して

天満橋総合クリニック院長 大宮 美香



令和4年4月1日付けで関西医科大学天満橋総合クリニックの院長を拝命いたしました。

当クリニックは昭和44年にOMMメディカルセンターとして開院し、50年余りの歴史を有しますが、このたび私が院長を引き継ぐことになり、その重責に身の引き締まる思いでございます。

私は平成元年に関西医科大学卒業後、麻酔科学講座で研修し、平成4年に旧香里病院内科に籍を移し、その後内科学第三講座に入局して、関西医科大学附属病院、現香里病院で

消化器疾患の診療に携わってまいりました。なかでも炎症性腸疾患を専門とし、日々その診療に従事するとともに、岡崎和一主任教授(現香里病院院長)のご指導のもと、厚生労働科学研究「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」に参加させて頂き、他大学の先生方との共同研究にも取り組んでまいりました。

さて、「超高齢社会」を世界で最初に迎えた日本において、健康寿命をいかに長く保つか、すなわち予防医療がいかに重要であるかは疑う余地もありません。当クリニックは平成24年に関西医科大学

と経営統合して天満橋総合クリニックとなり、現在は、内科、眼科、皮膚科、放射線科、乳腺外科からなる外来部門と総合健診センターとで構成されています。未病における生活習慣改善指導、疾患の早期発見・早期治療介入、発病後の悪化・合併症予防など、予防医療のすべての段階に対応できるクリニックとなるように、スタッフ一同とともに全力で取り組みたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

略歴

平成元年	関西医科大学卒業
平成元年	関西医科大学麻酔科学講座 研修医
平成 2年	済生会泉尾病院麻酔科
平成 4年	関西医科大学附属病院麻酔科学 医員
平成 4年	関西医科大学附属香里病院第1内科 医員
平成 8年	関西医科大学附属香里病院第1内科 助手
平成18年	関西医科大学附属枚方病院消化器肝臓内科 助教
平成22年	関西医科大学香里病院内科 診療講師
令和 3年	関西医科大学天満橋総合クリニック
令和 4年	関西医科大学天満橋総合クリニック 院長

看護学部長・大学院看護学研究科長に就任して

看護学部長・看護学研究科長/こども看護学領域教授 加藤 令子



令和4年4月1日付けで関西医科大学看護学部長・大学院看護学研究科長を拝命いたしました。

私は本学に平成28年度に着任し、2年間学部・大学院博士前期・後期課程の設置の準備を進めてまいりました。平成30年度の開設以降、私は、看護学部教務部長を3年間、大学院教務部長を1年間務め、学生への教育の質の担保に尽力してまいりました。また、医学部・リハビリテーション学部との合同授業の企画・調整等を科目責任者として担当してまいりました。

一方、こども看護学領域の教授として、学部教育および大学院教育を担い、各課程の学生の背景は異なりながら、こどもを主体とした実践を展開するための授業に努めております。

研究活動は、長く障がいのあるこども自身が自然災害に備えるための教育プログラム開発に取り組み、現在は、ICT教育教材の開発・介入研究による効果検証に取り組んでおります。今後、海外との共同開発も視野に入れ、災害時のこどもと家族の命と生活を守るプログラム開発を目指しております。

社会貢献としては、令和3年度より一般社団法人日本小児看護学会理事として小児看護学の発展に努めております。

これまでの経験を活かしながら、教育の更なる質の向上、また、教員の研究力向上および社会貢献に教職員一同、力を合わせて取り組み、学部・研究科のさらなる発展に努めてまいります。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和55年	慈恵看護専門学校卒業
昭和55年	東京慈恵会医科大学附属病院 看護師
昭和58年	埼玉県立小児医療センター 看護師
昭和61年	慈恵看護専門学校 専任教員
平成 9年	兵庫県立看護大学大学院看護学研究科修士課程入学
平成11年	兵庫県立看護大学大学院看護学研究科修士課程修了、同博士後期課程入学
平成12年	アメリカ・ミネソタ州 MAYO CLINIC研修(4週間:木村看護振興財団海外研修)
平成14年	兵庫県立看護大学大学院看護学研究科博士後期課程修了
平成14年	社団法人日本看護協会認定部 統括部長
平成17年	茨城県立医療大学保健医療学部看護学科・同大学院 教授
	アメリカ・ミネソタ州 MAYO CLINIC研修(2週間:茨城県立医療大学海外研修)
平成25年	共立女子大学看護学部 教授
平成28年	関西医科大学看護学部設置準備室・医学教育センター 教授
平成30年	関西医科大学看護学部・大学院看護学研究科博士前期・後期課程 教授
令和 4年	関西医科大学看護学部長・大学院看護学研究科長

看護学部への就任にあたって



令和4年4月1日付で関西医科大学看護学部の基礎看護学領域教授を拝命致しました。若かりし頃JICA青年海外協力隊としてラオスでの任期を終えた帰国後に、再就職した関西医科大学附属病院での経験は、その後の進路を決めるうえで大きな転機となりました。その特別な場所で看護基礎教育を担う機会を頂けましたことに、心より感謝申し上げます。

私は基礎看護学を専門とし、入学直後の学生たちが、看護実践の基盤となる技術や考え方を学んでいく支援をしていきます。しっかりとした基盤ができてこそ、臨床での実践力につながります。特に実習で遭遇するような臨床場面を再現したシミュレーション教育の導入をはじめ、教育方法を工夫することで、学生は学びを深め一段と成長していく姿を目にできました。その成長がとても嬉しく、今後も「学ぶことが楽しい」と思えるような学修環境を整えていきたいと考えております。また、ここ数年はコロナ禍で教育現場も大きな変化を求められてきました。引き続き様々な制限が余儀なくされることが予測されます

基礎看護学領域教授 山本 加奈子

が、どのような状況においても、学びの保証ができるよう創意工夫し、変化に対応していきたいと思っております。講義・演習・実習を通し、学生のみならず看護の楽しさや奥深さを、共に楽しく学びながら、自ら考え行動できるナースに育つ看護教育を目指して、一層精進し邁進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

略歴

- 平成 6年 国立療養所宇多野病院 看護師
- 平成 9年 舞鶴市立市民病院 看護師
- 平成12年 青年海外協力隊 ラオス派遣 看護師
- 平成15年 関西医科大学附属病院 看護師
- 平成18年 青森県立保健大学 看護学科 助手
- 平成19年 青森県立保健大学 健康科学研究科博士前期課程修了
- 平成20年 青森県立保健大学 看護学科 助教
- 平成22年 青森県立保健大学 健康科学研究科博士後期課程修了
- 平成23年 日本赤十字広島看護大学 看護学科 講師
- 平成28年 川崎医療福祉大学 保健看護学科 准教授
- 令和 4年 関西医科大学 看護学部基礎看護学領域 教授

看護学部基礎看護学領域教授に就任して



令和4年4月1日付で関西医科大学看護学部基礎看護学領域教授を拝命いたしました。看護学部の新設に尽力された、基礎看護学領域教授の皆様の大きな功績の後を引き継がせていただきます。これは大変名誉なことであるとともに、その重責に身の引き締まる思いです。コロナ禍において、チーム医療の重要性が再認識されています。基礎医学と基礎医学研究を基盤とした最新技術、応用力に対応できる専門的知識・技術を備えた看護力をもつ

た人材の育成に努めて参ります。私は、生体内複合糖脂質の意義という生化学的テーマから、生命科学の一研究者としてスタートを切り、留学中は、カナダ多発性硬化症協会の研究員として基礎医学研究に従事しました。帰国後、解剖学・組織学を医学部生と学ぶ中で新しい視点を得て、医学の根幹である人体の構造と機能の教育に強く関心をもつようになりました。関西医科大学医学部へ赴任して12年の間に培った知識・技術、指導力をもって、“学問的探究心を備え、国際的視野をもつ人間性豊かな看護師”を育てることを使命とし、看護学部、関西医科大学の発展

基礎看護学領域教授 平原 幸恵

に尽力する所存でございます。また、多職種連携教育の一環として、解剖見学実習などを取り入れ、医学部教育との連携、さらには3学部チーム学習の実現を目指したいと考えております。今後とも、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略歴

- 平成 6年 3月 愛知教育大学 教育学部・総合理学科・生命科学専攻 卒業
- 平成 6年 4月 愛知教育大学大学院(修士課程)理科教育研究科・化学専攻 入学
- 平成 8年 4月 大阪大学大学院医学研究科(博士課程)入学
- 平成12年 4月 母子保健総合医療センター研究所 代謝部門 博士研究員
- 平成13年10月 トロント大学 Department of Medical Genetics and Microbiology 博士研究員
- 平成15年 5月 トロント小児病院 Division of Molecular Structure and Function 博士研究員
- 平成20年 4月 京都府立医科大学 医学部 解剖学第一講座 プロジェクト研究員
- 平成22年 4月 関西医科大学 医学部 解剖学第一講座 助教
- 平成29年 5月 関西医科大学 医学部 解剖学第一講座 講師
- 平成31年 4月 関西医科大学 医学部 解剖学講座 講師
- 令和 4年 4月 関西医科大学 看護学部基礎看護学領域 教授

看護学部への就任にあたって



令和4年4月1日付けで、看護学部看護学科基礎看護学領域の教授を拝命いたしました。完成年度を迎え、新たなステージへと向かう関西医科大学で、教育・研究に携われることを大変光栄に感じています。特に、これまでの看護学を拡張する地元創成看護学という新たな領域がカリキュラムの中に位置づけられており、最先端だと確信しています。

私の研究者としてのスタートは、「心と身体に分けないでみる人間観」への問いでした。自身も心身症の当事者であり、心療内科という新しい分野が医学の中に立ち上がった頃でした。そこで、身体は医者、心は心理士、と分けた診察に疑問を感じ、「分けない」看護学を学びたいと思いました。看護学は、兵庫県立看護大学の1期生として、前看護学部長である片田範子先生をはじめ、多くの先生方から学ぶことができ、研究者の道も開いていただきました。助手として働く中で、「看護における人間科学」を学びたいという思いが与えられ、京都大学大学院に進学いたしました。京都大学では、杉万俊夫先生からグループ・ダイナミックスや社会構成主義を学ぶ機会を与えられ、アクションリサーチャーとして

基礎看護学領域教授 鮫島 輝美

の道がスタートしました。フィールドは主に京都で、「ともに生きる知恵」を住民から教えていただきました。こうした知を、ここ関西医科大学の皆様とともに発展させるチャンスに恵まれ、ワクワクしております。よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

略歴

- 平成 2年 3月 奈良女子大学家政学部生活経営学科卒業
- 平成 2年 4月 オギサカ株式会社 社長室勤務
- 平成 9年 3月 兵庫県立看護大学看護学部看護学科卒業
- 平成 9年 4月 兵庫県立塚口病院 看護師
- 平成12年 4月 兵庫県立看護大学看護学部看護学科基礎看護学領域 助手
- 平成20年 3月 京都大学大学院人間・環境学研究所共生人間学専攻博士前期課程 修了(人間・環境学、京都大学大学院人間・環境学研究所)
- 平成23年 3月 京都大学大学院人間・環境学研究所共生人間学専攻博士後期課程 単位取得退学
- 平成23年 4月 京都光華女子大学健康科学部看護学科 講師
- 平成27年 3月 博士(人間・環境学、京都大学大学院人間・環境学研究所)
- 令和 2年 4月 京都光華女子大学健康科学部看護学科 准教授
- 令和 4年 4月 関西医科大学看護学部看護学科基礎看護学領域 教授

看護学部在宅看護学領域教授に就任して

在宅看護学領域教授 李 錦純



令和4年4月1日付で看護学部在宅看護学領域教授を拝命いたしました。看護学部は大学院看護学研究科とともに平成30年4月に開設され、今年3月に初の卒業生を輩出しました。このような節目の年に領域教授という重責を担うことになり、大変名誉ながら身が引き締まる思いです。

私は看護師としての臨床経験を経て、平成22年より看護系大学教員として在宅看護学領域を専門に教育研究に携わってきました。大学院では高度実践看護師(CNS)の養成に力を注ぎ、修了生は在宅看護CNSとして現場で活躍しています。本学には開設時に着任し、当該領域の責任者として、微力ながら学部および大学院教育の新たな構築に努めてきました。

在宅看護を取り巻く環境は日々多様化・複雑化しており、住み慣れた自宅を基盤とした地域での暮らしと健康を支える看護職の育成は急務といえます。現在、多文化社会に対応した地域包括ケアを研究テーマとして、在宅ケアグローバル人材養成教育プログラムの開

発に着手しており、在宅看護学は萌芽的ながら創造性に富む分野であると実感しています。引き続き、地域の健康を支える質の高い人材の育成と有用な研究成果の蓄積と発信に向けて精進してまいります。

看護学部、関西医科大学、ひいては地域社会の持続的発展に貢献できるよう、社会的責任を自覚し、誠心誠意尽力していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

略 歴

平成 5年 3月	慶應義塾看護短期大学 卒業
平成 5年 4月	慶應義塾大学病院 看護師
平成12年 3月	東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻 卒業
平成18年 3月	東京女子医科大学大学院看護学研究科博士前期課程 修了
平成22年 3月	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程 修了
平成22年 4月	近大姫路大学(現姫路大学)看護学部 在宅看護学領域 講師
平成25年 4月	兵庫県立大学看護学部・大学院看護学研究科 在宅看護学領域 准教授
平成30年 4月	関西医科大学看護学部・大学院看護学研究科 在宅看護学領域 准教授
令和 4年 4月	関西医科大学看護学部・大学院看護学研究科 在宅看護学領域 教授

看護学部・看護学研究科こども看護学領域教授に就任して

こども看護学領域教授 大橋 敦



令和4年4月1日付で看護学部・看護学研究科こども看護学領域教授を拝命いたしました。私は平成6年に本学を卒業し、ただちに小児科学教室に入局しました。附属病院での研修の後、香里病院に転出、その際に深く新生児医療と関わりました。新生児医療の更なる研鑽を積むために、平成10年に東京女子医科大学母子総合医療センターに国内留学し、最先端の新生児医療を学びました。帰校後は、附属病院新生児集中治療室に勤務し、早産児・

低出生体重児の治療に当たるとともに、臨床研究や研修医・学生への教育も行ってきました。病院では病棟医長、大学では教育医長を経験させて頂き、教えることの難しさや面白さに気づく機会を得ました。また、同時期に広島大学と摂南大学で看護学教育に携わる機会を頂戴しました。これらの経験を活かすべく、平成30年に開設した看護学部へ異動し、看護学教育に携わることになりました。学部生には臨床医学系の講義、大学院生には医師としての視点から各種ゼミや論文指導を担当しています。研究では、コロナ禍でも教育の質が維持できるようにICTや音声を用いた新たな教育手法の確立に

取り組んでいます。医学と看護学とは異なる部分が少なくないのですが、この差異を自分の中で十分に咀嚼し、看護学教育の向上に精進していく所存です。

今後も、関西医科大学看護学部・看護学研究科の発展に貢献できるよう尽力致します。引き続きご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

略 歴

平成 6年 3月	関西医科大学卒業
平成 6年 5月	関西医科大学附属病院小児科 研修医
平成 8年 4月	関西医科大学附属香里病院小児科 医員
平成10年 4月	東京女子医科大学母子総合医療センター新生児部門 助手
平成11年 4月	関西医科大学附属病院小児科 医員
平成18年 1月	関西医科大学小児科 助手
平成23年 4月	関西医科大学小児科 講師
平成27年 4月	関西医科大学附属枚方病院 病院准教授
平成30年 4月	関西医科大学看護学部・看護学研究科 准教授 関西医科大学小児科 准教授(併任)
令和 4年 4月	関西医科大学看護学部・看護学研究科こども看護学領域 教授

看護学部教授に就任にあたって

老年看護学領域教授 江本 厚子



令和4年4月1日付で看護学部老年看護学領域の教授を拝命いたしました。関西医科大学看護学部は、2018年に看護学部・大学院博士前期・後期課程を同時開学されており、話題になっておりました。このたび、御縁があってこちらで看護教育に携わらせていただくことに感慨深いものがあります。

私は老年看護学を専門として、高齢者の生活支援にまつわる排泄ケアを長年研究テーマとしてきました。高齢者が健康で生き生きと生活するためには、「自分の口から食べること」「気持ちよく排泄すること」「社会参加を続けること」などが大切です。しかし、2年間以上続いているコロナウイルス蔓延により、高齢者の生活にも大きな変化をもたらしました。家族以外の人々と直接会って話せない、デイサービスやデイケアなど生活機能の維持に欠かせないサービスを受けられないことなどは、高齢者とその家族の健康に大きな影響を与えています。とくに認知症高齢者が自宅で生活を続けることにも問題が生じています。

学部生には高齢者のことをよく知り、何を支援することが大切か

を考えてもらえるような教育をしていきたいと思っています。大学院生には、高齢者の実証的な看護研究に取り組んでもらえるようにともに学んでいきたいと考えています。また、微力ながら社会貢献に取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

略 歴

昭和50年 3月	南山大学経営学部卒業
昭和62年 3月	国立療養所東名古屋病院附属看護学校卒業
昭和62年 4月	国立名古屋病院 看護師
平成 6年 3月	聖路加看護大学看護学部卒業(3年次編入)
平成 8年 3月	聖路加看護大学大学院修士課程修了
平成 8年 4月	横浜市立大学看護短期大学部 看護学助手
平成14年 3月	東京医科歯科大学保健看護学研究科博士後期課程修了(看護学博士)
平成14年 4月	石川県立看護大学 助教授
平成19年 4月	東海大学健康科学部看護学科 准教授
平成26年 7月	京都府立医科大学医学部保健看護学研究科 老年・在宅看護学領域 教授
令和 4年 4月	関西医科大学看護学部老年看護学領域 教授

看護学部クリティカルケア看護学領域教授に就任して

クリティカルケア看護学領域教授 宇都宮 明美



令和4年4月1日付で関西医科大学看護学部クリティカルケア看護学領域の教授を拝命いたしました。本学の看護学部・看護学研究科において教育および研究を担当させていただく機会をいただき身が引き締まる思いです。

私は昭和62年に京都市立看護短期大学を卒業後、看護師として国立循環器病センターに入職し、循環器救急・集中ケア領域で看護実践してまいりました。平成16年に大阪府立看護大学大学院博士前期課程修了後、急性・重症患者看護専門看護師として兵庫医科大学病院で8年間勤務しました。兵庫医科大学病院在職中は、私の専門である救急・集中ケアとともに、JR福知山線脱線転覆事故受け入れを経験し、傷病者のトリアージ、入院患者の心理的ケアに従事しました。平成23年聖路加看護大学急性期看護学准教授としての着任が看護教育のスタートになります。聖路加在職中も兵庫医科大学心臓血管外科非常勤講師として、心臓血管外科周術期看護外来を行い、平成30年には京都大学大学院人間健康科学系専攻

准教授、京都大学医学部附属病院副看護部長という、常に臨床実践と教育、臨床研究のユニフィケーションに努めてまいりました。クリティカルケア看護領域における専門性の高い高度看護実践者の育成を中心におきつつ、関西医科大学看護学部の発展に貢献できるよう尽力いたします。今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

略歴

昭和62年	京都市立看護短期大学	卒業
昭和62年	国立循環器病センター	入職
平成11年	Griffith University	卒業
平成16年	大阪府立看護大学大学院博士前期課程急性期看護学CNSコース	修了
平成16年	兵庫医科大学病院 ICU師長、教育担当師長、教育担当次長	
平成23年	聖路加看護大学(現聖路加国際大学)急性期看護学	准教授
平成30年	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻クリティカルケア看護学分野	准教授 京都大学医学部附属病院看護部 副看護部長
令和3年	自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程広域実践看護学	修了
令和4年	関西医科大学看護学部クリティカルケア看護学領域	教授

リハビリテーション学部作業療法学科教授に就任して

作業療法学科教授 福井 信佳



令和4年3月1日付で関西医科大学リハビリテーション学部作業療法学科教授を拝命いたしました。私の専門は義肢装具分野で、特に上肢切断者に対する義手のリハビリテーションです。平成元年にはその臨床経験を活かし、タイ国へ技術協力の機会を得て2年余りIndustrial Rehabilitation Centerへ勤務してきました。若いころの経験でしたが現在の専門分野に自信を深めるきっかけとなりました。

帰国後は装具の研究開発に取り組み機能的電気刺激(FES)に関する研究を行ってきました。

その後、大学に籍を移してからは障がい者の職場定着に関する研究も実施しています。特に精神障がい者は入職時だけでなく入職後の職場定着が困難となっていることが明らかになっています。その原因究明や課題解決の手掛かりを得るための研究を続けています。

今後とも、以上の臨床経験や研究結果は学生教育へ反映するよう心

掛けていきます。最後にこの度は、リハビリテーション学部作業療法学科開設の機会に参加させていただき大変嬉しく思っております。飯田寛和学部長、吉村匡史学科長のもと学生教育に尽力する所存でございます。ご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和56年	4月	労働者健康安全機構大阪労災病院	作業療法士
平成元年	2月	Industrial Rehabilitation Center(Thailand)	
平成3年	4月	労働者健康安全機構大阪労災病院	作業療法士
平成6年	4月	労働者健康安全機構大阪労災病院	主任作業療法士
平成12年	9月	佛教学部社会学部社会福祉学科卒業	社会福祉士
平成17年	3月	大阪府立大学大学院経済学研究科博士前期課程修了	
平成22年	4月	大阪保健医療大学保健医療学部リハビリテーション学科	准教授
平成25年	3月	大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科博士後期課程修了	博士(保健学)
平成25年	4月	関西福祉科学大学保健医療学部リハビリテーション学科	准教授
令和2年	4月	関西福祉科学大学保健医療学部リハビリテーション学科	教授
令和4年	3月	関西医科大学リハビリテーション学部作業療法学科	教授

リハビリテーション学部作業療法学科教授に就任して

作業療法学科教授 加藤 寿宏



令和4年4月1日付でリハビリテーション学部作業療法学科教授を拝命いたしました。開設2年目の新しいリハビリテーション学部の発展に向け教育、研究、臨床に邁進してまいります。

私は京都大学医療技術短期大学部で作業療法士の免許を取得したのち、肢体不自由児施設で脳性麻痺の作業療法に従事しました。その後、平成元年に母校の助手として着任後、平成15年に京都大学医学部人間健康科学科講師、平成19年から京都大学大学院医学研究科准教授として約35年間、京都大学で教育、研究、臨床に従事してきました。

私の専門は、子どもの作業療法です。京都大学では、自閉スペクトラム症児の感覚処理障害と協調運動障害に対する評価・リハビリテーションプログラムの開発、小児がん患児の認知機能、協調運動に関する研究を行ってきました。また、附属病院のリハビリテーション部にも所属し、神経発達症、脳性麻痺、染色体異常、小児がん

など様々な疾患の子どもの作業療法に従事してきました。リハビリテーションは、臨床、研究、教育のすべてにおいて多職種連携が不可欠です。様々な専門性を背景にもつ先生方との協力関係のもと、臨床、研究、教育を進め関西医科大学の発展に貢献できるよう尽力いたします。ご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくようお願い申し上げます。

略歴

昭和61年	京都大学医療技術短期大学部作業療法学科卒業
昭和61年	愛知県立第一青い鳥学園(作業療法士)
平成元年	京都大学医療技術短期大学部作業療法学科 助手
平成10年	大阪教育大学大学院教育学研究科障害児教育専攻修了
平成14年	京都大学医療技術短期大学部作業療法学科 講師
平成15年	京都大学医学部保健学科作業療法学専攻 講師
平成18年	京都大学医学部人間健康科学科 准教授
平成19年	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 准教授
令和4年	関西医科大学リハビリテーション学部作業療法学科 教授

内科学第一講座教授退任にあたって

内科学第一講座前教授 野村 昌作



平成22年4月に関西医科大学内科学第一講座の主任教授に就任し、令和4年3月末で無事に任期を終えることとなりました。この間、大過なく健康に過ごせたことに関して、お世話になった多くの方々に感謝の意を表したいと思います。

教授着任後は、内科学第一講座に対して私が何をすべきであるかという問いかけを繰り返しながら日々を過ごして参りました。臨床面では、血液腫瘍内科の部長として造血幹細胞移植をはじめ、様々な造血器疾患の診療体制確立に努めてきました。また、大学の方針に従って新たに着任頂いた4名の診療教授の方々と、血液に加えて、呼吸器・リウ

マチ膠原病・感染症の診療体系を整えてきました。内科の根底に位置する内科学第一講座の立ち位置を示すことができたのではないかと思います。

研究面では、生体防御に関わる免疫・炎症・止血凝固を柱として、基礎および臨床の研究を推進し、医局員の学位取得に貢献できたと自負しております。また教育面では、大学から教務部長と教育担当副学長の職位を拝命し、学生教育の様々な困難な場面に遭遇しながら、関西医大の学生の医師としての将来のために、多忙ではありましたが充実した年月を送らせていただきました。

今後は、私のライフワークであります止血・凝固系疾患の診療に従事しながら、次の目標にむけてマイペースで頑張っていけたらと考えています。

心療内科学講座教授退任にあたって

心療内科学講座前教授 福永 幹彦



卒後5年目の昭和63年、のちに初代教授になられる中井吉英先生がおられた第一内科学講座に入局。以来33年間、関西医大でお世話になりました。当初心療内科グループは数名、中井先生に手取り足取り教えていただくという幸せな時間をすごしました。その後心療内科学講座が

独立、平成21年には私を第二代の教授に任用していただきました。心療内科臨床医として評価の高い前任者を引き継いだため、関西医大心療内科の名を汚さないよう緊張して就任したことを覚えています。就任早々の平成22年に診療部門が滝井から枚方の附属病院に移転、平成25年には大学も移転し、素晴らしい環境で臨床、教育、研究に取り組むことができました。その後、

附属病院の総合診療科が講座内に位置づけられ部長に、また緩和ケアセンターのセンター長にも任命いただきました。私自身、心療内科は各診療科の間の患者や、治療困難となった患者の診療を積極的に担うべきと考えていましたので、これらの診療に関与させていただけたことは、とてもありがたいことでした。学務では、平成30～令和2年の四年間、学生部長に任命いただきました。令和元年には40年に一度の西日本医学生体育大会の主催校となり、私が理事長として学生の運営をサポートする役割を担いました。このおりの学生との交流は、楽しく忘れられない思い出となりました。このたび退任にあたり振り返りますと、つくづく運の良い男だなと思いますとともに、学内のまた地域のみなさまのたくさんの暖かいご支援があったことにあらためて気づきました。本当にありがとうございました。

天満橋総合クリニック 院長退任にあたり

理事長特命教授 浦上 昌也



今春、財団医療法人OMMメディカルセンターが学校法人関西医科大学と経営統合し、関西医科大学天満橋総合クリニックとして再開院してから10周年を迎えました。私は、OMMメディカルセンターの所長(常務理事)から引き続き院長の任に就いてまいりましたが、この度、院長

の任期満了により天満橋総合クリニックを退職し、大学へ異動することになりました。これまで、皆様より賜りましたご支援、ご厚情に厚く御礼申し上げます。

私の目標は、天満橋総合クリニックを名実ともに関西医科大学の予防医療の拠点とし、この分野でのトップランナーとなることでした。そのため、まず経営基盤を安定させることに注力

しました。そのうえで、臨床研修医、医学生や看護学生の臨床実習も多数受け入れ、少しは医学教育にも貢献できたかなと考えています。しかし、私が何より大事だと考えてきたのは、医療の質を高く保ちながら、がんの早期発見や健康寿命延伸などの予防医療の恩恵を一人でも多くの人にもたらすことです。院長就任後も、受診者の皆様から頂く感謝の言葉を心の支えに、一日も休むことなく診療を継続できたことは本当に幸いでした。

今後、私はクリニックの診療を一部継続しながら、理事長特命教授として、関西医科大学の新しい予防医療体制の構築に取り組みます。今後とも、皆様のご支援を賜りたく存じます。何卒よろしくご厚意申し上げます。

看護学部長・大学院看護学研究科長退任にあたり

前看護学部長・大学院看護学研究科長 片田 範子



関西医科大学看護学部が開設される1年前、平成29年の4月に着任いたしました。看護学部準備室が医学部棟の11階にあったころは、淀川の広い流れと兩岸の情景は刻々と変化しその美しさに目を見張り、心を開かれる思いの毎日でした。看護学部棟が立ち上がり、「関西医科大学看護学部」の文字が掲げられ、教職員の皆さんが顔を合わせ、それぞれが研究室・共同研究室にそろい、待ちに待った看護学部、看護学研究科の1年生達がそろって踏み出す入学式の様子も見事なものでした。

看護学部の学生が初めて卒業式を迎える今年はずでに看護学研究科の修了式は博士前期課程では3回目を迎え、後期課程は2回目の修了式となります。新型コロナウイルス感染症の蔓延防止等重点措置が解除される日となるはずですが、これまでと同様慎重に時を過ぎさなければならぬ時代です。

看護学部の5名の教授は第一回の卒業式と研究科の修了式を以て満期定年を迎えます。組織として通常の定年を超えた人材を確保し、教授として迎えられたことは大学院をフルに展開し

ていくだけの大学として、可能性を秘めた組織となったと思います。この陣容には次代を担う教員が続いています。

医学部とは異なった性格の学部を、医学部の皆さんは穏やかに、肝要に、楽しみながら見てくださったと感じています。学生たちも同様に、臨床やフィールドで出会ったときに共に学びあった仲間と受け止めていただけると信じています。ここまで一丸となって進めてきた要は看護学部事務部の存在です。学生が直にカウンターに来たとき、誰かがそっと立ち上がり学生に耳を傾ける様子は、なんともほっとするものです。今年度になって、フルメンバーとなりましたが、これからもタグを組む仲間としてそれぞれが学生を中核として動いている組織は健全だと思います。

最後になりましたが、学生達を「私たちの学生」として受け入れ育ててくださった、病院・附属施設の看護部の皆さまは、看護学部が思考され始める前から、学部の応援団として、そして今も続いて、仲間として支えてくださっていることに感謝申し上げます。

これまでの5年間は刺激的であり、楽しい時間でした。慈心心鏡の元、信頼と尊敬を互いに分かち合える医療人を育てる大学として、これまで以上に発展されることを祈念しています。

退任のご挨拶

基礎看護学領域前教授 藤本 悦子



平成30年の看護学部立ち上げとともに本学に赴任しました。大阪は私の故郷で、やっと戻ってきたという嬉しさいっぱいでしたが、4年間を振り返ってみますと、その高揚感とは裏腹に、どれだけ役に立ったのかという不全感も感じております。特に後半の2年間は、コロナ禍に翻弄され、教育の質を担保することに五里霧中でした。

そんな中で、本学で良かったと思うことがございます。それは、曲がりなりにもいいとは言えない看護学部での研究環境でしたが、研究の場をベッドサイドに移した時、附属病院の方々

から温かいご支援を頂いたことです。患者さんを対象者とした研究でしたが、その都度ご協力、ご助言くださった看護師、定期的な研究カンファレンスにいつも参加してくださった医師。これまでの研究者生活においても附属病院の方々との共同研究を経験してまいりましたが、これほど看護師、医師の方々とのコミュニケーションを図ることができたことはありません。本学の良さをつくづく感じました。いただいたご助言やご指導には深く感謝しております。4月からは別の大学へ赴任しますが、一陽来復とともに、今後も本学で得られたご縁を大切に、教育に研究に励んでいきたいと思っております。

末筆ながら看護学部のご発展をお祈りしております。

退任のご挨拶

基礎看護学領域前教授 杉本 哲夫



今回で退任挨拶は二度目になります。「おとづれ」にも5年前に一度載せてもらっていますので、ここではそのあとの話をします。

本学に看護学部設置準備室ができて着任しました。履歴書、業績目録などを至急用意せよ、ということで、研究・教育業績の取りまとめと学部開設申請用の書類づくりに明け暮れました。論文はもちろん、すべての学会発表にも相当な字数の概要を付けること、ということもあってとても忙しく書類づくりを続けながら医学部を退職しました。研究業績は在籍中その都度すぐに記録をしておくべしとの教訓を改めて噛み締めました。学部と大学院の設置が無事決定し、わたしは大学院丸合なになにというタイトルを頂戴しました。

翌春、学部一期生が入学し、同時に新設の大学院にも博士前期後期の学生さんが大勢揃い、華やかに新学期を祝いました。ここからはとてもたくさんの授業科目が一気に始まり、新分野の勉強に忙殺される毎日が続きました。そうこうしているうちに4年の歳月があつという間に過ぎ、この3月には初めて学部卒業生を送り出しました。新型コロナ第6波がようやくピークアウトかと目される新年度なので、社会人として安定した門出ができるよう強く願っております。

わたしはこの間、医学・医療の基礎のみならず多くの分野で臨床・治療のアップデートを学ぶことができました。これらの貴重な経験は今後の研究・教育のステップアップにつながるものと大変感謝しております。長きにわたりお世話になりました大学の理事長・学長先生をはじめ、担当理事、教職員・同僚の皆様のごさらなるご発展を祈念し挨拶といたします。

看護学部・看護学研究科教授退任にあたって

老年看護学領域前教授 水野 敏子



看護学部の開設と共に着任し、一期生と共に卒業します。本学部は病態からではなく、生活者としての人の理解から学びはじめ、その後、身体とくらし、ひととの関連から健康や看護を深めるというユニークな教育カリキュラムを有していることが魅力です。

老年生活看護学では学生があまり接したことがない高齢者そのものの理解から、倫理的な側面を重視して教育してまいりました。

大阪は商売人の街であり、大阪で生まれ育ち地域移動が比較的少ない場所のように思われ、それ故コロナ感染症も家族の中で発症しやすい面もありますが、他人への関心や父子間の濃密な会話が育くまれていることに感銘を覚えました。そのような

人々への看護へのアプローチを考えると一筋縄には進めない複雑性とあたたかなケアにつながるように感じております。

本学部では実習等から看護と介護の相違を整理しなおす必要性を強く感じました。院生と共にこれらの点を含め老年看護の本質を考える時間が十分ではなかったことが心残りです。老年看護は急性期に回復を促進しても元の健康レベルには戻らない人々が多く、今後も急性期看護の充実が求められています。

関西医科大学は世界的視野から物事を考え、チャレンジ精神にあふれていました。このような校風を大事にしていきたいものです。

今年卒業した一期生や院生が看護の主翼を担う時代が到来した時に、どのような看護を展開し、人間観を有するのか楽しみにしております。

看護学部・看護学研究科教授退任にあたって

クリティカルケア看護学領域前教授 林 優子



平成30年4月に新設された関西医科大学看護学部・大学院看護学研究科に教授として着任し、看護学部が完成年度を迎えた令和4年3月末で定年退職となりました。関西医科大学での4年間は短い年月ではありましたが、学生や教員、事務職の皆様と共に、苦しんだり笑ったり、楽しんだりしながら、与えられた仕事を全うできたという思いに満ちております。

4年前、看護職を目指して、あるいは実践力や教育力、研究力を高めることを目指して、看護学部や看護学研究科に入学してきた学生達は輝いていました。そのような学生の輝きを大切にしていきたいとの願いを持って、教育研究活動をスタート

させたことが懐かしく思い出されます。後半の2年間は、猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の対応に振り回されましたが、制限ある環境の中で、遠隔講義・演習・実習に熱心に取り組む学生達の姿に励まされました。私の研究室は看護学部棟6階で西側に面しており、真っ赤な夕日が沈む景色は最高でした。研究室の窓から、雄大な淀川や河川敷を散策する人の姿、枚方大橋を行き交う車の流れをポーッと眺めることは、1日の疲れを癒やすことができる瞬間でした。

4年間私をいつも支えてくださいました教職員の皆様、本当にありがとうございました。新型コロナウイルス感染症が早く収束することを願いつつ、皆様のご健康とご活躍、そして関西医科大学のますますのご発展を心よりお祈りしております。

くずは病院整形外科がNewsweek誌

The World's Specialized Best Hospitals 2022に選出

くずは病院整形外科が、米国国際ニュース週刊誌Newsweekが毎年発表している世界のベスト病院ランキング『The World's Specialized Best Hospitals 2022』のOrthopedics（整形外科）部門において、89位に選出されました。

同ランキングは世界20カ国以上を対象に、10の専門分野から優良な病院を選出し表彰するものです。医師、病院経営者、医療専門家など4万人以上の医療従事者を対象に、それぞれの専門分野で様々な病院を推薦・評価してもらうオンライン調査が実施されています。

また、調査結果は、著名な医療専門家で構成されているグローバルボードによって検証されています。

● ランキングの詳細 ●

【Newsweek】The World's Specialized Best Hospitals 2022

URL:www.newsweek.com/worlds-best-specialized-hospitals-2022/orthopedics



「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

～本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力お願い申し上げます～

平素より関西医科大学に対して、温かいご支援、ご協力を賜わり心より厚く御礼申し上げます。

本学は、昭和3年の創立以来慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを「建学の精神」とし、自由・自律・自学の学風のもと、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野を持つ人間性豊かな良医を育成することを「教育の理念」として多くの医師を世に送り出し、社会に大いに貢献してまいりました。

英国の教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)」が実施・集計した世界大学ランキング2022において、国内では国公立の総合大学を含めて13位、私立大学では2位となりました。ここ数年継続的に高い評価を受けており、これもひとえに皆様方のお力添えの賜物と感謝いたしております。

施設設備の整備につきましては、本学のグローバル化のシンボルとして、また入院患者様とご家族様を支える拠り所として建設中であった関医タワーが1月に完成いたしました。今月には、附属光免疫医学研究所の開所を迎え、「その領域で、世界でonly oneかつnumber one」に向けて最先端医学研究所を作るという長年の構想が現実のものとなりました。さらに、本年は、予防医療として「健診センター」、健康維持のための「メディカルフィットネス」の2つの機能を持つ「くずは駅中健康・健診センター(仮称)」の開設と、附属病院別館(令和6年竣工予定)の建設工事着工を予定しており、その後も、附属病院本館のリニューアルや総合医療センター西館建設など順次整備を進めてまいります。

新型コロナウイルス感染症のパンデミック宣言から2年が経過しましたが、新たな変異株の出現により収束が未だ見通せない状況です。このような将来の予測が困難な時代においてこそ歩みを止めずに進化し続けてまいります。

国際的プレゼンスのある医科大学を目指し、教育・研究・診療のさらなる整備に向けて本年度も別添のとおりご寄付の募集をさせていただくことになりました。この趣旨をご理解いただきまして、何卒ご支援、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

1. 募集対象

本学学生の保護者、同窓会員、本学関連の個人および法人その他

2. 申込方法及び払込方法

法人事務局財務部募金室に寄付金申込書をご提出いただき、本学指定の銀行口座にお振込み、又は、ご持参ください。

【税制上の優遇措置】

●個人の場合

■所得税(どちらか一方の制度を選択)

(A) 所得控除(「寄附金控除」)

寄付金額から2千円を差引いた金額を所得金額から控除できます。所得控除を行なった後に税率を掛けるため、所得税率が高い高所得者の方に減税効果が高くなります。
※寄付金額は総所得金額等の40%が限度となります。

(B) 税額控除(「公益社団法人等寄附金特別控除」)

寄付金額から2千円を引いた額の40%が税額控除の対象額となります。税率に関係なく、税額から直接控除するため、小口の寄付に減税効果が高くなります。

●法人の場合

受配者指定寄付金制度を利用することで寄付金全額が損金算入されます。

■住民税

大阪府にお住まいの方は府民税減税対象となります。

(大阪府と住所地の市町村に住所・氏名・寄付金額・寄付金受領日を提供いたします。)

所得税が最大 40% 減額されます

【お問い合わせ先】

関西医科大学法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL:072-804-2146 FAX:072-804-2344

メール:bokin@hirakata.kmu.ac.jp

HP:<https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html>

なお、この募金の応募は任意です。

遺贈・相続財産によるご寄付も承ります

【遺贈によるご寄付】

●遺贈によるご寄付とは……遺言によって資産の全部、または一部を本学に寄付する制度です。

・信託銀行が遺言執行までサポートします。ただし、信託銀行へ手数料が発生いたします。

・本学から三井住友信託銀行、三菱UFJ信託銀行をご紹介しますことができます。

【相続財産によるご寄付】

●相続財産によるご寄付とは……故人様のご遺志によって、相続財産から本学に寄付する制度です。

・本学にいただいたご寄付は申告することにより、その分の相続税を非課税にすることができます。

・相続財産によるご寄付は、現預金のみお受けしております。

【遺言信託業務協定先】

三菱UFJ信託銀行梅田支店 (06-7636-0780)

三井住友信託銀行大阪本店法人業務部 (06-6220-2515)

令和4年1月から令和4年3月までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

令和4年度入職式



新入職員に祝辞を述べる山下理事長

4月1日(金)10時から枚方キャンパス加多乃講堂と第1・2・3・4講義室を中継で結び、「令和4年度入職式」が挙行され、新入職者325名が出席しました。この日は山下敏夫理事長、友田幸一学長を始め、澤田敏副理事長、神崎秀陽常務理事、附属病院松田公志病院長、総合医療センター杉浦哲郎病院長、香里病院岡崎和一病院長らが臨席。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて会場を分散しての開催となりました。

理事長訓辞に立った山下理事長は、90年を超える関西医科大学の歴史を紐解きながら本学の現状やこれからについて解説。なかでも本年4月に開所した本学の研究力・ブランド力を飛躍的に高める役割を担う光免疫医学

研究所については、研究内容・施設概要・与える影響について期待を込めて語りました。結びとして常に本学が進化し続けるために「オール関西医大」の一員として一人ひとりが大きな夢を持ち、周囲に語り、努力し、夢をかなえていただきたいと述べました。

続いて新入職員を代表して登壇した光免疫医学研究所免疫部門福山英啓研究所教授に、山下理事長から辞令が手渡されました。その後、福山研究所教授が答辞を述べて入職式は閉式となりました。



福山研究所教授へ辞令を手渡す山下理事長

第1回 女性医師奨励賞(アプリコット賞) 受賞者決定

オール女性医師キャリアセンターでは、本学に勤務する女性医師を対象に、教育、研究又は診療の分野において、優れた成果をおさめた方を表彰することで、モチベーションの維持と向上を図り、女性医師全体の更なる活躍を支援することを目的として、女性医師奨励賞を創設しました。このたび、審査を経て、5名の方が受賞されましたのでご紹介します。

なお、3月28日(月)15時15分から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室にて表彰式が行われ、植村芳子センター長、覚道奈津子副センター長が出席し、受賞者への表彰が行われました。

第1回女性医師奨励賞(アプリコット賞)受賞者

- 小児科学講座 准教授 石崎 優子
- 病理学講座 講師 大江 知里
- 外科学講座 診療講師 兼松 清果
- 腎泌尿器外科学講座 診療講師 滝澤 奈恵
- 形成外科学講座 病院助教 田中 寧子

(令和4年3月現在の職位で記しています)



受賞者と植村センター長(左)・覚道副センター長(右から2番目)



今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	2月25日	域医療連携推進法人北河内メディカルネットワーク(KMN)介護感染対策共同研修実施	
	3月18日	関医タワー竣工式	
	4月1日	光免疫医学研究所開設	
	4月1日	入職式	
大学	1月6日	スチューデントドクター認証式	
	1月21日	医師国家試験受験に向けた激励会	
	3月2日	令和3年度医学部卒業式	
	3月2日	研究医養成コース修了証授与	
	3月2日	シェイク・アンタ・ジョブ大学とのオンラインMTG	
	3月11日	退任教授最終講義(内科学第一講座)	
	3月16日	国家試験結果発表(医師)	
	3月17日	教員評価成績優秀者表彰式	
	3月22日	令和3年度看護学部卒業式	
	3月22日	大学院医学研究科学学位記授与式	
	3月22日	大学院看護学研究科学学位授与式	
	3月22日	医学会賞贈呈式	
	3月23日	学舎災害訓練	
	3月25日	退任教授最終講義(心療内科学講座)	
	3月25日	国家試験結果発表(看護師・助産師・保健師)	
	4月1日	教育センターに名称変更	
	4月5日	令和4年度入学式	
1月15日	難病センター市民公開Webセミナー		
2月16日	がん教育外部講師派遣		
3月1~31日	アレルギーセンターWeb市民公開講座		
3月19日	北河内周産期カンファレンス		
3月29日	附属病院ボランティア交流会		
4月1日	診療科・センター新設		
総合医療センター	3月12日	地域連携Webセミナー	
香里病院	2月5日	地域連携Webセミナー	

令和3年度医学部卒業式

令和3年度看護学部卒業式

学舎災害訓練

北河内周産期カンファレンス

附属病院ボランティア交流会

令和3年度医学部卒業式

医

3月2日(水) 13時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、「第68回医学部卒業式」が執り行われました。昨年度に引き続き、今年度の卒業式は新型コロナウイルス感染症対策のため加多乃講堂への入室人数を制限した上で、卒業生の保護者は一家族1名に限定して参加。同棟1階第1講義室、試験・実習室から同時中継を視聴しました。学位記授与では今年度卒業を迎える100名の氏名が読み上げられたのち、友田幸一学長から卒業生代表に学位記が直接手渡されました。卒業生たちは友田学長の式辞を傾聴し、卒業生総代感謝の言葉では、医師として社会に出る覚悟と決意、教職員や保護者などこれまで支えてくれた方々への6年間の感謝の言葉が語られました。



式辞を読み上げる友田学長

学長式辞

学長 友田 幸一

90回生の卒業生の皆様、保護者の皆様、本日はご卒業誠におめでとうございます。

感染防止のため対面授業が十分に行えない中、厳しい試験地獄に耐え、苦難を乗り越え卒業された努力と研鑽の成果を心から讃えたいと思います。

皆さんは、「病で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちで医学の道を選んだことと思います。これまで教養を深め、医師として必要な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけてこられたことと信じます。これからは医師として活躍することになりますが、人の命を預かる医師に妥協は許されません。また新型コロナウイルスのように新たな病原体との戦いは人類の永遠の課題であり、医師は最前線で患者の治療に当たらねばなりません。

初心の気持ちを今一度思い出して、病める人の気持ち・感情に共感でき、常に寄り添える医師になって欲しいと思います。

さて、今後の医学・医療界は超高齢社会において在宅・介護・福祉も強化する必要があり、高齢者の尊厳の保持と、自立生活支援を目的とした「地域包括ケアシステム」が求められます。本学は、すでに附属の4病院に地域医療を支える体制を整えており、皆さんは、高度先進・専門医療だけでなく、新たに地域医療に必要な知識を学び、経験を積むことができます。

一方、医学界での技術革新は今後一層進展することが予測されます。本学では国内で唯一の光免疫医学研究所が開設され、「第5のがん治療」として注目される光免

疫療法の研究と診療が本格的に始動します。

皆さんは、自身のキャリア形成のためにも志を高く持って科学に根差した医療を目指して欲しいと思います。

本学は今年創立94年を迎え、医学部と看護学部、リハビリテーション学部を合わせた医療系複合大学になりました。この4月からは関医タワー内に、国際化推進センターと留学生寮と患者家族の宿泊施設「関医タワーホテル」がオープンします。3年先には附属病院別館が建設され、DX化されたスマートホスピタルに生まれ変わります。

私は学長就任以来、大学のグローバル化を目指してきました。本学は4年連続でTHE世界大学ランキングにランクインし、今年の世界で601~800位、国内の全私立大学で第2位、関西の私立大学で第1位となりました。これからも「世界に開かれた大学」をめざし、皆さんの若いエネルギーと新しい発想をもって共に頑張りたいと思います。卒業しても同窓生としての誇りをもって常に母校愛を忘れないでください。

最後に、比叡山延暦寺天台宗最澄(さいちょう)の言葉を贈ります。「一隅を照らす、これ則ち国宝なり」。皆が気付かない片隅で社会を照らす人こそ国の宝であるという意味で、たとえ注目されなくても、自分の置かれた場所でベストを尽くすことが大切であると説いています。

本学の建学の精神「慈仁心鏡」にも通ずるところがあり、この精神をひと時も忘れず、それぞれのプロフェッショナルの道を究め、一人ひとりが一隅を照らす存在になってください。本日は誠におめでとうございます。

令和3年度看護学部卒業式

看

3月22日(火) 13時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、「第1回看護学部卒業式」が執り行われました。平成30年4月に開設した看護学部は、今年初めての卒業生を輩出。学位記授与では96名の名前が読み上げられ、友田幸一学長から卒業生の代表に学位記が手渡されました。続いて、学長式辞に続いて看護学部片田範子学部長から祝辞が述べられました。祝辞では医学部を持つ本学に看護学部ができた意義などにふれながら、それぞれの進路に進む卒業生にエールが送られました。

その後、卒業生代表の白石貴幸さんから感謝の言葉が述べられた後、祝電披露に続いて在学中の成績優秀者の学生への表彰が行われました。



祝辞を述べる片田学部長

学長式辞

学長 友田 幸一

うらかな春の季節を迎え、本日ここに第1回関西医科大学看護学部卒業式を挙行できますこと、この上ない喜びであります。

看護学部としての初めての卒業生を送り出すにあたり、卒業生の皆様、保護者の皆様、本日はご卒業誠にありがとうございます。本学を代表して心からお祝い申し上げます。

さて、本日、ここに男子5名、女子91名、計96名の卒業生を送り出すことができますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。とりわけ看護学部教職員の皆様にはこれまでの教育指導ならびに生活指導に熱心に取り組んでいただき深く感謝いたします。

この一年は、皆さんにとって最終の学年であり、思い出深い一年であります。コロナウイルス感染防止のため対面授業が十分に行えない中、その苦難を乗り越えて見事に卒業されました。これまでのたゆまぬ努力と研鑽の成果を心から讃えたいと思います。

さて皆さんは、平成30年に看護学部が新設され、その一期生になります。これからの時代は、医療の進歩と高度化、専門化に対応できる医療人、また医療だけでなく介護、福祉、在宅など、高齢化社会、地域医療にも貢献できる多様性に富んだ医療人の育成が必要です。医師と看護師は互いに協働し、補い合うだけでなく、それぞれの専門性の高い知識と技術を互いに活かし、より高度の医療を提供してほしいと思います。

関西医大には4つの附属病院があり、それぞれ最新・

最先端医療を提供していますが、同時に地域住民の訪問看護、介護、福祉を目的とした地域医療を支える体制を整えています。これらの施設が皆さんのこれからの実践・活躍の場になります。

皆さんは、「病で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちで看護学の道を選んだことと思います。そして4年間、教養を深め、看護の必要な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけてこれたことと信じます。これからは看護師、助産師、保健師として医療の分野で活躍することになりますが、人の命を預かる私たちに妥協は許されません。皆さんは常にその最前線で患者の診療に当たらねばなりません。

初心の気持ちを今一度思い出して、病める人の気持ち・感情に共感でき、常に寄り添えるに人なって欲しいと思います。

卒業後も本学の建学の精神、「慈仁心鏡」、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きること」を決して忘れることなく、さらに自分のキャリアを磨き、専門看護師、認定看護師や、大学院に進み修士、博士の学位を取得するなど高みの医療人をめざして欲しいと思います。

最後に1979年にノーベル平和賞を受賞されたインドのマザー・テレサの有名な言葉を贈り式辞とします。「にっこり笑うだけでどんなに大きな善いことができるか、私たちには決してわからないでしょう。」でも「あなたは、あなたであればいい。」「あなたの笑顔を世に与え続けなさい。」

本日はご卒業おめでとうございます。

大学関係役員



4月1日から、大学関係役員体制が次の通りスタートしました。

学 長	友田幸一	リハビリテーション学部教務部長	大学院医学研究科教務副部長	中邨智之	
副学長	木梨達雄		大学院看護学研究科教務部長	瀬戸奈津子	
副学長	金子一成	医学部教務副部長	Raoul BREUGELMANS	附属図書館長	赤根 敦
看護学部長	加藤令子	〃	谷崎英昭	属生命医学研究所長	木梨達雄
リハビリテーション学部長	飯田寛和	学生部長	西山利正	総合研究施設長	清水(小林) 拓也
リハビリテーション学部 理学療法学科長	池添冬芽	学生副部長	北田容章	実験動物飼育共同施設長	大隈 和
リハビリテーション学部 作業療法学科長	吉村匡史	〃	覚道奈津子	アイソトープ実験施設長	塩島一朗
医学部教務部長	岡田英孝	学生部副部長(看護学部)	近藤麻理	入試センター長	中川 淳
看護学部教務部長	酒井ひろ子	学生部副部長(リハビリテーション学部)	中野治郎	教育センター長	西屋克己
		大学院医学研究科教務部長	人見浩史	国際化推進センター長	友田幸一
				学 医	薬師寺祐介



令和4年度医学部クラスアドバイザー、看護学部、リハビリテーション学部クラス担任

令和4年度のクラスアドバイザーおよびクラス担任が次のとおり決定しました。

【医学部】

第1学年	大隈 和 教授 (微生物学)
第2学年	六車恵子 教授 (iPS・幹細胞応用医学)
第3学年	村川知弘 教授 (呼吸器外科学)
第4学年	薬師寺祐介 教授 (神経内科学)
第5学年	木下秀文 教授 (腎泌尿器外科学)
第6学年	谷崎英昭 教授 (皮膚科学)

【看護学部】

1年次	矢山 壮 准教授 (精神看護学領域)
2年次	大川聡子 准教授 (地域看護学領域)
3年次	青木早苗 准教授 (がん看護学領域)
4年次	太田祐子 准教授 (看護学教育領域)

【リハビリテーション学部】

理学療法学科	1年	佐藤春彦 教授
	2年	中野治郎 教授
作業療法学科	1年	福井信佳 教授
	2年	三木恵美 准教授

公益財団法人大学基準協会による「大学基準適合」の認定

関西医科大学は公益財団法人大学基準協会による「大学基準適合」の認定を受けました。学校教育法で日本のすべての大学は、7年の周期で文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受けることが義務づけられています。

本学では、平成27年にも同協会の認証評価を受けており、今回3回目の「大学基準適合」認定を受けることができました。

認定期間は令和4年4月1日～令和11年3月31日までです。評価(認証評価)結果の詳細は同協会ホームページでご覧いただけます。



令和4年度 医学部教務関係日程表

1学年	
4/5(火)	入学式
4/6(水)~4/8(金)	新入生健康診断・ガイダンス
4/11(月)	1学期開講
4/21(木)・4/22(金)	合宿研修
5/3(火)~5/5(木)	休講(5月連休)
6/30(木)	創立記念日
7/21(木)	1学期終講
7/25(月)~8/19(金)	夏季休業(期間内に臨床実習P1a(早期体験実習))
8/22(月)	2学期開講
10/22(土)・23(日)	大学祭
12/23(金)	2学期終講
12/26(月)~1/3(火)	冬季休業
1/4(水)	3学期開講
2/27(月)	総合試験
2/27(月)	3学期終講
3/1(水)	卒業式

2学年	
4/6(水)	1学期開講
4/20(水)	学生定期健康診断
5/3(火)~5/5(木)	休講(5月連休)
5/15(日)	解剖体追悼法要
6/30(木)	創立記念日
7/22(金)	1学期終講
7/25(月)~8/25(木)	夏季休業
8/26(金)	2学期開講
10/22(土)・23(日)	大学祭
12/22(木)	2学期終講
12/23(金)~1/6(金)	冬季休業
1/10(火)	3学期開講
1/20(金)・26(木)・27(金)	臨床実習P2(看護実習)
2/24(金)	総合試験
2/24(金)	3学期終講
3/1(水)	卒業式

3学年	
4/6(水)	1学期開講
4/19(火)	学生定期健康診断
5/3(火)~5/5(木)	休講(5月連休)
5/13(金)・16(月)・23(月)	臨床実習P3(医療面接入門)
5/15(日)	解剖体追悼法要
6/30(木)	創立記念日
7/29(金)	1学期終講
8/1(月)~8/19(金)	夏季休業
8/22(月)	2学期開講
10/22(土)・23(日)	大学祭
12/23(金)	2学期終講
12/26(月)~1/5(木)	冬季休業
1/6(金)	3学期開講
1/23(月)~2/17(金)	リサーチP3(配属実習)
2/28(火)	総合試験
2/28(火)	3学期終講
3/1(水)	卒業式

(注) 休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

4学年	
4/6(水)	1学期開講
4/20(水)	学生定期健康診断
5/3(火)~5/5(木)	休講(5月連休)
6/30(木)	創立記念日
7/22(金)	1学期終講
7/25(月)~8/19(金)	夏季休業(期間内に人間P4(社会医学実習))
8/22(月)	2学期開講
10/12(水)~11/11(金)	臨床実習P4a(総合臨床医学実習)
10/22(土)・23(日)	大学祭
11/9(水)	共用試験CBT
11/18(金)~11/19(土)	Pre-CC OSCE
11/21(月)~11/25(金)	臨床実習P4b(医療情報学)
11/28(月)~12/16(金)	臨床実習P4c(プレクリニカル・クラークシップ)
12/20(火)	2学期終講
12/21(水)~1/4(水)	冬季休業
1/5(木)	3学期開講
1/10(火)~3/24(金)	臨床実習
3/1(水)	卒業式
3/24(金)	3学期終講

5学年	
4/4(月)	1学期開講
4/4(月)~7/29(金)	臨床実習
4/19(火)	学生定期健康診断
5/3(火)~5/5(木)	休講(5月連休)
6/3(金)	中間試験
6/30(木)	創立記念日
7/29(金)	1学期終講
8/1(月)~8/19(金)	夏季休業
8/22(月)	2学期開講
8/22(月)~11/4(金)	臨床実習
未定	CC中間検討会
11/11(金)	クリニカル・クラークシップ総合試験
11/14(月)~12/23(金)	臨床実習
12/23(金)	2学期終講
12/26(月)~1/6(金)	冬季休業
1/10(火)	3学期開講
1/10(火)~3/24(金)	臨床実習
3/1(水)	卒業式
3/24(金)	3学期終講

6学年	
4/4(月)	1学期開講
4/4(月)~7/15(金)	臨床実習
4/7(木)	学生定期健康診断
5/3(火)~5/5(木)	休講(5月連休)
6/30(木)	創立記念日
7/15(金)	1学期終講
7/19(火)~8/19(金)	夏季休業
8/22(月)	2学期開講
8/23(火)	卒業試験①
8/29(月)~10/7(金)	まとめの講義(予備・自習含む)
9/30(金)~10/1(土)	Post-CC OSCE
10/19(水)~10/20(木)	卒業試験②
10/25(月)~11/4(金)	まとめの講義(予備・自習含む)
11/15(火)~11/16(水)	卒業試験③
11/16(水)	2学期終講
11/17(木)	冬季休業開始(以降自習期間)
12/22(木)	第2回卒業判定用試験
3/1(水)	卒業式

令和4年度 看護学部教務関係日程表

看

1~4年次	
4/4(月)	健康診断(3・4年)
4/5(火)	入学式
4/4(月)~4/7(木)	在学生オリエンテーション
4/6(水)~4/11(月)	新入生オリエンテーション
4/6(水)	健康診断(1・2年)
4/8(金)	2~4年生1学期開講
4/13(水)	1年生1学期開講
6/30(木)	創立記念日
7/11(月)~7/22(金)	学期末試験期間
7/22(金)	1学期終講
8/8(月)~8/21(日)	夏季休業
8/22(月)	2学期開講
10/21(金)~10/23(日)	大学祭
11/14(月)~11/18(金)	学期末試験期間
11/18(金)	2学期終講
12/5(月)	3学期開講
12/26(月)~1/4(水)	冬季休業
2/27(月)~3/3(金)	学期末試験期間
3/3(金)	3学期終講

令和4年度 リハビリテーション学部教務関係日程表

リ

1年次	
4/5(火)	入学式
4/5(火)~4/8(金)	新入生オリエンテーション
4/6(水)	在学生オリエンテーション
4/6(水)	2年生前期開講
4/8(金)	健康診断(1・2年)
4/11(月)	1年生前期開講
6/30(木)	創立記念日
8/1(月)~8/12(金)	期末試験期間
8/12(金)	前期終講
8/13(土)~9/30(金)	夏季休業
10/1(土)	後期開講
10/21(金)~10/23(日)	大学祭
12/27(火)~1/5(木)	冬季休業
2/6(月)~2/18(土)	期末試験期間
2/18(土)	後期終講
2/20(月)~3/31(金)	春季休業

令和3年度医学部教員評価優秀者表彰式を開催

医

3月17日(木) 15時40分から枚方キャンパス医学部棟第一講義室において、令和3年度の「医学部教員の活動状況調査票」に基づく教員評価優秀者への表彰式が開催されました。本学では、平成15年から、「教員個人の活動状況を定期的に点検・評価することにより、教員活動の激励または改善のための助言を行い、本学の教育、研究、診療などの向上を図ること」を目的に教員評価を行っています。対象者全員から提出された活動状況調査票をもとに一定の基準を達成した教員を表彰(※)しており、今年度は准教授6名、講師16名、助教25名が選出されました。表彰式は、新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け、代表者のみの出席とし、友田幸一学長から代表者6名に表彰状と副賞が贈呈されました。教員評

価表彰者一覧はホームページに掲載しています。
※…各職位において通算3回表彰された教員は対象外



友田学長から表彰を受ける代表者

令和4年度Student Doctor 認証式

医

1月6日(木) 14時から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において令和4年度Student Doctor 認証式が挙行されました。Student Doctorとは、Pre-CC OSCE及びCBTに合格して5学年に進級する医学部学生に対し、臨床実習中の医学生としての医行為を認める制度です。

認証式では、新型コロナウイルス感染症感染予防に配慮し、認証を受ける学生一人一人の名前が読み上げられた後、友田幸一学長から代表学生へ認定証が授与されました。その後は友田学長の挨拶、野村昌作医学部教務部長の挨拶に続き、臨床実習先を代表して附属病院松田公志病院長、総合医療センター杉浦哲朗病院長から訓示が述べられました。

最後に学生代表からStudent Doctorとしての誓いの

言葉が述べられ、学生たちは臨床現場で始まる実習に向けて気を引き締めている様子でした。



認定証を授与する友田学長(右)と受け取る代表学生(左)

研究医養成コース修了証書授与

3月2日(水) 13時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において挙行された「第68回医学部卒業式」において、研究医養成コース修了証授与が行われました。研究医養成コースの所定の課程を修了した医学部6年生の代表学生に友田幸一学長から修了証書が授与されました。



代表学生に修了証書を授与する友田学長

新規講座設置について

医

4月1日付で、内科学第一講座から呼吸器腫瘍内科部門が独立し、呼吸器腫瘍内科学講座として新設されました。

大学院看護学研究科に「がん看護学領域」新設

看

令和4年4月、大学院看護学研究科に「がん看護高度実践看護師コース・がん看護研究者コース」が新設されました。これらのコースでは、がん薬物療法看護、放射線療法看護を中心に、予防的観点から治療中やその後の療養、そして人生の最期まで、その人らしい人生を支援できるがん看護実践者・研究者を育成していくことを目指しています。

医学教育センターが教育センターに名称変更

医 看 研

医学教育センターが4月1日付で「教育センター」へと名称が変更されました。

これは平成30年の看護学部開設、令和3年のリハビリテーション学部開設を踏まえ、広く本学の全学生の教育支援を同センターが担うことになったことに伴うものです。

令和4年度入学試験結果



令和4年度入学試験結果は以下の通りです。

※令和4年4月1日時点

医学部入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
特別枠学校推薦型選抜試験(専願制)	43	10	10
地域枠学校推薦型選抜試験(専願制)	106	15	15
一般枠学校推薦型選抜試験	256	16	4
特色選抜試験	63	14	7
一般選抜試験(前期)	1,755	110	58
一般選抜試験(後期)	486	5	10
大学入学共通テスト利用選抜試験(前期)	590	84	12
大学入学共通テスト利用選抜試験(後期)	77	0	0
大学入学共通テスト・一般選抜試験併用試験	485	79	11
計	3,861	333	127

看護学部入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
学校推薦型選抜試験(専願制)	161	25	25
〈併願制〉	78	12	2
一般選抜試験(2教科型)	323	64	19
〈3教科型〉	392	115	52
大学入学共通テスト利用選抜試験(2教科型)	160	35	3
〈3教科型〉	167	35	3
一般選抜試験 追試験	1	1	1
計	1,282	287	105

リハビリテーション学部(理学療法学科)入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
総合型選抜試験	19	3	3
学校推薦型選抜試験 適性能力試験型(専願制)	25	17	17
〈併願制〉	18	6	2
学校推薦型選抜試験 調査書重視型(専願制)	7	5	5
〈併願制〉	4	4	2
一般選抜試験(2教科型)	22	9	8
〈3教科型〉	33	19	15
大学入学共通テスト利用選抜試験 前期(2教科型)	36	23	7
〈3教科型〉	14	10	2
大学入学共通テスト利用選抜試験 後期(2教科型)	7	5	1
計	185	101	62

リハビリテーション学部(作業療法学科)入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
総合型選抜試験	4	4	4
学校推薦型選抜試験 適性能力試験型(専願制)	3	3	3
〈併願制〉	10	10	7
学校推薦型選抜試験 調査書重視型(専願制)	1	1	1
〈併願制〉	2	2	1
一般選抜試験(2教科型)	11	10	6
〈3教科型〉	17	17	10
大学入学共通テスト利用選抜試験 前期(2教科型)	15	15	4
〈3教科型〉	6	6	0
大学入学共通テスト利用選抜試験 後期(2教科型)	4	4	4
計	73	72	40

大学院医学研究科修士課程入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
前期試験	1	1	1
後期試験	3	3	3
計	4	4	4

大学院医学研究科博士課程入学試験結果

	志願者	合格者	入学者
前期試験	2	2	2
後期試験	13	13	12
計	15	15	14

大学院看護学研究科入学試験結果

	志願者		合格者		入学者	
	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程
夏期日程	5	7	3	2	2	2
冬期日程	6	5	5	1	5	1
計	11	12	8	3	7	3

第116回医師国家試験結果

医

3月16日(水)第116回医師国家試験の結果が発表されました。本学の新卒受験者100名のうち98名が合格し、合格率は98.0%、新卒および既卒を合わせた受験者総数では、本学の受験者112名のうち106名が合格し、合格率は94.6%でした。新卒の合格率は、私立医科大学30校中6位となりました。

今後も学生全員の合格に向け、サポート体制を継続していく予定です。

国家試験結果（看護師・助産師・保健師）

看

平成30年に開設した看護学部は、令和4年3月に初めての卒業生を輩出しました。一期生94名が看護師国家試験に、91名が保健師国家試験に合格、さらに10名の選択制である助産師コース卒業の学生全員が、助産師国家試験に合格しました。

看護学部生全員が看護師、保健師の国家試験受験資格を取得できるのは、関西圏の私立大学では本学だけです。医学部・リハビリテーション学部と多彩な附属医療機関を持つ本学の環境、地域を意識した本学独自のカリキュラムや充実したバックアップ体制が今回の結果につながりました。

国家試験	回数	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	全国平均	
					新卒者 (%)	全体 (%)
看護師	111	95	94	98.9	96.5	91.3
保健師	108	95	91	95.8	93.0	89.3
助産師	105	10	10	100.0	99.7	99.4

令和4年3月度大学院医学研究科学位記授与式挙行

医

3月22日(火) 15時30分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、友田幸一学長をはじめ木梨達雄副学長(研究担当)、人見浩史大学院医学研究科教務部長や指導教員らが列席し「令和4年3月度学位記授与式」が挙行され、課程博士12名、論文博士5名に、友田学長から博士(医学)学位記が授与されました。その後の学長告辞では学位取得者の努力を労い、「医学博士としての知識を今後の医師人生に生かしていただき、後輩の育成などさらなる活躍を期待します」との激励の言葉が贈られました。



学位記を手にする授与者

大学院看護学研究科学位授与式

看

3月22日(火) 10時から枚方キャンパス看護学部棟2階講義室1において、友田幸一学長、大学院看護学研究科片田範子研究科長、関西医科大学看護同窓会安田照美会長らが列席して「令和3年度大学院看護学研究科学位授与式」が挙行され、博士前期課程の修了生7名、博士後期課程の修了生2名に友田学長から学位記が授与されました。その後の学長告辞では学位取得者の努力が労われ、片田研究科長の祝辞では、「今後困難に出会ってもそれを乗り越えられる人間であってほしい」と願うとの修了生を励ます言葉が贈られました。



祝辞を述べる片田研究科長

第21回 関西医科大学医学会賞

令和3年11月5日(金)、枚方キャンパス医学部棟1階オープンラウンジにおいて、第21回関西医科大学医学会賞の応募講演が行われました。選考の結果、第21回関西医科大学医学会賞に選ばれた3名には、3月22日(火)15時30分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂で行われた贈呈式にて医学会賞が授与されました。

1位 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 鈴木 健介 助教



■演題「Combination Therapy with Lenvatinib and Radiation Significantly Inhibits Thyroid Cancer Growth by Uptake of Tyrosine Kinase Inhibitor」

この度は名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、大変光栄に存じます。私はこれまで頭頸部癌の診療に携わって参りましたが、大学院博士課程進学後は難治性甲状腺癌に対する新規治療法の開発を目的とした基礎研究をおこなってきました。本研究では、甲状腺癌細胞株とモデルマウスを用いて分子標的薬レンバチニブと放射線外照射の併用による相乗効果とそのメカニズムを世界で初めて報告しました。将来的な臨床応用と疾患予後の向上を目指して現在も研究を継続しています。研究の遂行にあたり耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の岩井大教授、教室員の先生方、放射線科学講座、薬理学講座、分子遺伝学講座、医化学講座の先生方に多大なるご指導ご協力を頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2位 小児科学講座 赤川 友布子 助教

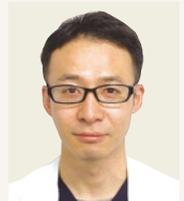


■演題「ST 合剤による持続的少量抗菌薬予防投与が乳幼児の腸内細菌叢に及ぼす影響」

この度は名誉ある関西医科大学医学会賞を賜り、誠にありがとうございます。私は平成26年に本学大学院に進学し、小児腸内細菌叢の研究に携わりながら小児腎泌尿器疾患の診療を行ってきました。今回、膀胱尿管逆流を有する上部尿路感染症患者における少量持続的抗菌薬予防投与の妥当性を腸内細菌叢の観点から初めて報告することができました。本賞受賞を励みとして、今後はさらに小児上部尿路感染症の発症予防法の開発にも貢献できるよう引き続き邁進してまいりたいと思います。

この場をお借りして、いつもご指導いただいている金子一成教授ならびに小児科学講座の先生方に心から御礼申し上げます。

3位 内科学第三講座 伊藤 嵩志 助教



■演題「Interleukin-35 promotes the differentiation of regulatory T cells and suppresses Th2 response in IgG4-related type 1 autoimmune pancreatitis.」

この度、名誉ある関西医科大学医学会賞の受賞を賜り誠に感謝申し上げます。胆膵疾患を専門として日々診療をしている中で、難病にも指定されている自己免疫性膵炎の研究を行いました。免疫寛容を担う制御性T細胞から産生される新規インターロイキンであるIL-35が自己免疫性膵炎の病態に関与することを報告しました。IL-35は自己免疫性膵炎に対し、疾患活動性マーカーや、新規治療薬の潜在性を含むと考えています。自己免疫性膵炎はまだまだ解明されていない病態が存在し、今後も研究を進め、病態解明に携わっていきたいと考えております。本研究にあたり多大なご指導を賜りました岡崎和一前教授(現香里病院長)、田中敏宏先生をはじめ内科学第三講座の諸先生方に深く御礼申し上げます。

附属病院鹿島看護師、仲村視能訓練士が文部科学大臣表彰を受賞

令和3年度医学教育等関係業務功労者に、附属病院看護部鹿島京子看護師、附属病院視力検査室仲村永江視能訓練士が選ばれ、文部科学大臣表彰を受賞しました。

文部科学省では国立、公立及び私立の大学における医学・歯学に関する教育研究又は患者診療等に係る業務に関し、顕著な功労のあった人を対象に大臣表彰を行っています。今回の2名は長年の勤労や後進の育成に寄与した功績が認められ、表彰を受けるに至りました。



鹿島看護師



仲村視能訓練士

内科学第一講座野村昌作教授最終講義

医

3月11日(金) 14時30分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、内科学第一講座野村昌作教授の最終講義が開講され、友田幸一学長をはじめ学生、教職員など約100名が参加しました。

野村教授は『止血機構～その明と暗』と題して講演。血液凝固が止血という重要な生理機序を担う一方、血栓形成という病態を起こしてしまう点にふれ、血栓形成のメカニズムや関連因子の作用について自身のこれまでの研究成果を紹介。また、大阪府医師会会長から令和3年度医学教育功労者として表彰された業績も紹介し、これまで関係した教職員への感謝の意を述べ講義を締めくくりました。

講義後、山下敏夫理事長と友田学長が挨拶に立ち、

それぞれ野村教授のこれまでの労をねぎらい、今後の活躍を祈りました。最後に関係者から花束が贈呈され、記念撮影の後最終講義は閉講しました。



最終講義を終えて記念写真に収まる野村教授(最前列中央)と参加者

心療内科学講座福永幹彦教授最終講義

医

3月25日(金) 15時40分から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、心療内科学講座福永幹彦教授の最終講義が開催され、友田幸一学長をはじめ学生、教職員など約100名が参加しました。

福永教授は『「やまい」の多様性と心身医学』と題して講演。多様性について自身のルーツを交えながら、西洋人と東洋人の認知プロセスの違いや、血縁より地縁、個よりも集団・組織を大切にする日本独特の文化が形成された背景、心身症患者さんの治療事例を紹介しました。「マイノリティーを押しつぶすのではなく尊重することが、多様な社会・組織を維持することにつながり、より豊かな発展を保障する。そして多様な背景をもつ患者さんの訴えを尊重し、寄り添う態度が必要ではないか」と述べ講義を締めくくりました。

講義後、山下敏夫理事長と友田学長が挨拶に立ち、

教授、センター長としての診療面での貢献や学生部長としての西体体主管などこれまでの労をねぎらい、今後の活躍を祈りました。最後に関係者から花束が贈呈され、記念撮影の後に最終講義は閉講しました。



最終講義を行う福永教授

シェイク・アンタ・ジョップ大学とのオンライン国際ミーティング開催

3月2日(水) 17時30分から、セネガル共和国のシェイク・アンタ・ジョップ・ダカール大学(UCAD)とのオンライン国際ミーティングが行われました。このミーティングは、本学の協定校であるUCADへの国際大学院プログラムの募集活動として開催したものです。

本学からは、友田幸一学長、大学院医学研究科教務部人見浩史部長、国際交流センター副センター長西山利正教授の3名が、UCADからはDr. Abdoulaye SAMB MD, PhD (医学部名誉学部長)、Professor Roger TINE (サイエンス・コーディネーター)が参加しました。加えて、令和3年4月に、本学とUCADとの協定の調印式に来学したゴルギ・シス駐日セネガル共和国大使もオンラインミーティングに出席し、国際大学院プログラムにつ

いて今後の期待が寄せられました。また懇談では今後の本学とセネガルとの交流の発展の可能性について意見が交わされました。



オンラインミーティングの様子

医学部6回生三浦さんが論文企画で最優秀賞を受賞

医

医学部6回生三浦雅郁さんが、広島経済研究所が主催した懸賞論文「10年後の広島の自動車産業のあるべき姿」(学生の部)で最優秀賞を受賞しました。この懸賞論文は、週刊経済誌「広島経済レポート」発行元の広島経済研究所が、同誌の創刊70周年を記念し、広島の自動車産業や地域経済の活性化への提言を募る目的で募集したものです。



論文タイトル『少子高齢化に伴う運転者減少に備えた新しい人と車の形の提言
—ヒロシマモデルによる産学官金連携—』

◆三浦雅郁さんコメント

私は以前から地方の過疎化やそれに伴う国家の衰退や医療問題に対して強い興味と関心を抱いていました。少子高齢化に伴う地方の過疎問題は、本邦だけではなく世界各地の大きな問題となっています。そんな中、父祖の地である広島が主催する論文の存在を知り、自動運転で医療問題を含めた地方の各種問題を解決できないかと考えました。そこで、現在医療でも注目されているビッグデータを用いた自動運転開発で、地方の各種問題を解決できないかと提言したところこのような素晴らしい賞を頂く次第となりました。

THE世界大学ランキング日本版2022に本学がランクイン

3月24日(木)、英国の教育専門誌「タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)」が世界大学ランキング日本版2022を発表し、関西医科大学は『151-200』位グループにランクインしました。当ランキングの詳細については タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)のホームページ(<https://japanuniversityrankings.jp/rankings/>)をご覧ください。



病院

附属病院 がん教育講演会

2月16日(水)9時40分から大阪府立寝屋川支援学校高等部において、附属病院がんセンター松森恵理師長(がん性疼痛看護認定看護師)が生徒24名を対象にがんについての出張事業を行いました。これは大阪府が進める学校教育でのがん啓発活動の一環としての取り組みで、がんに関する知見の社会還元を目的としたものです。

授業では、がんに関する基礎知識から原因、予防などについてクイズを交えながらわかりやすく解説。がんの種類によっては自覚症状がでるまで時間がかかることもあり、検診の重要性が説明されましたが、大阪府の検診受診率が低いことが示されると生徒たちからは「えーっ、

なんでなん」と驚きの声があがりました。普段聞くことのない話に興味津々の様子で質疑応答ではたくさんの手が挙がっていました。



講演を行う松森師長

附属病院 診療科、センターの新設

4月1日付けで脳神経外科から独立し、脳血管外科、脳血管内治療科が、また耳鼻咽喉科・頭頸部外科 歯科・口腔外科から独立して、歯科・口腔外科・口腔ケアセンターが、それぞれ開設されました。

附属病院

難病センター主催のWeb市民公開講座を放送

1月15日(土)14時から、附属病院難病センターがWeb市民公開講座を開催し、約100名の市民らが視聴しました。この日のテーマは「パーキンソン症候群の基礎知識」。附属病院難病センター薬師寺祐介センター長(神経内科学講座教授)司会の下、脳神経内科中村正孝講師が「パーキンソン病ってどんな病気?」を、同科飯田慎助助教が「パーキンソン症候群の診断と治療」を、同科森勢論助教が「パーキンソン病及びパーキンソン症候群のリハビリ」と題してそれぞれ講演。質疑応答のコーナーでは、若年層におけるパーキンソン症候群の発症や、投薬治療の開始時期、合併症との見分け方などの質問が寄

せられ、高齢者にとどまらない幅広い年代からの関心を伺わせました。



Web配信で行われた公開講座で、質疑応答に答える登壇者(右端は薬師寺教授)

総合医療センター

第3回総合医療センター地域連携Webセミナー

3月12日(土)16時から、Web形式にて第3回総合医療センター地域連携Webセミナーが開催され、地域医療機関の医師・医療スタッフ計123人が視聴しました。

地域医療連携部徳原克治部長の司会の下に会が進行し、杉浦哲朗病院長による開会挨拶、門真市医師会外山学会長による挨拶が述べられました。

その後の学術講演は、なかうち眼科クリニック中内正志院長を座長とし、眼科尾辻剛病院教授による「眼科マイクロサージェリーの進歩」、整形外科市川宣弘助教を座長とし、整形外科松矢浩暉部長による「当院における膝・股関節治療」の2つの講演が行われました。

次に耳鼻咽喉科・頭頸部外科からのビデオメッセージが

放映された後、最後に關壽人副病院長による閉会挨拶が行われ、盛会裏に幕を閉じました。



司会進行を務める徳原部長

香里病院

香里病院地域連携Webセミナー

2月5日(土)15時から、香里病院では初めての試みとなるWeb形式での「地域連携Webセミナー~地域密着型病院としての新たな取り組み~」が開催され、寝屋川市医師会の先生を中心に本学の医師、看護師、医療技術職を含む60人が視聴しました。

地域医療連携部の高橋延行部長の司会により、岡崎和一病院長と寝屋川市医師会香川英生会長の挨拶の後、セミナーが開催されました。寝屋川市医師会の先生方が座長を、当院の新たな診療機能を担う3人の医師が演者を務めました。

最初に寝屋川市医師会の伊与田賢也常務理事が座長を務め、石丸裕康総合診療科部長から「地域密着型病院が目指す『総合診療』」を、次に同医師会の伊藤彰彦理事が座長を務め、高岡亮内科部長から「胆膵疾患の内視鏡

診療 当院での取り組み」を、最後に同医師会の山下英三郎常務理事が座長を務め、乳腺センター綿谷正弘センター長から「最近の乳がん事情」と、それぞれ題して3つの講演が行われました。



開会挨拶を行う岡崎病院長

くずは病院

病院機能評価認定

くずは病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価審査を受審し、下記のとおり認定を受けました。

- 認定番号：JC1199-4
- 認定日：令和3年12月3日
- バージョン：3rdG:Ver.2.0
- 認定有効期限：令和8年(2026年)12月17日
- 種別・審査体制区分等：一般病院1(20~99床)(主たる機能)、リハビリテーション病院(副機能)



病院機能評価とは、医療機関の機能を中立的な立場で評価を行う第三者機関として設立された公益財団法人日本医療機能評価機構が、中立的、科学的・専門的な見地から審査を行い、機構の定める認定基準に達しているかを評価するものです。各専門領域の知識と経験を有する評価調査者が審査を行い、患者中心の医療の推進、良質な医療の実践、理念達成に向けた組織運営が評価されます。認定された病院は地域に根差し、安全・安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院と言えます。

当院は今回4回目の認定となり、日常生活圏域等の地域医療を支える中小規模病院として、またリハビリテーション医療を担う病院として、第三者機関から認定されました。

附属病院

がんに関する絵本「笑顔のチケット」を発刊

附属病院が事務局を担う北河内がん診療ネットワーク協議会からがんに関する絵本『笑顔のチケット』が発刊されました。絵本はがんに関する知識の啓蒙とがん検診受診率の向上を目的としたもので北河内がん診療ネットワーク協議会に所属する6病院(関西医科大学附属病院・関西医科大学総合医療センター・市立ひらかた病院・松下記念病院・星ヶ丘医療センター・佐藤病院)のがん専門医とがん看護専門看護師が監修し、大阪府地域連携強化事業補助金を使用して作成されました。絵本は北河内地区の小学校や公共施設への無償配布を予定しており、小学生やその親世代へ早期発見の大切さを知ってもらう広報活動に使用されます。

イラスト:すずきたかはる



「笑顔のチケット」表紙



卒後臨床研修センター

卒後臨床研修評価機構(JCEP)による認定病院

附属病院が、NPO法人卒後臨床研修評価機構(略称:JCEP)による第三者評価を受審し、2月1日付で4年の認定を受けました。

当院が臨床研修プログラムを有する基幹型臨床研修病院として、病院全体に研修医を育てるという意識が浸透しており、研修医を教育する体制が整っていることが評価されました。

JCEPは、国民に対する医療の質の改善と向上をめざすため、臨床研修病院における研修プログラムの評価や人材育成等を行い、公益の増進に寄与することを目的として設立されたNPO法人です。臨床研修評価では書面調査と訪問調査が行われ、研修プログラムがJCEPの定める基準を達成しているか検証されます。今後も卒後臨床研修の質をより一層高めることができるよう取り組んで参ります。





学会賞等受賞情報

令和4年1月～3月の学会賞受賞者等を紹介します。

時実賞

整形外科学講座 齋藤 貴徳 教授

- テーマ 我が国における術中モニタリングの歴史と整形外科における発展
- 授与学会 第51回日本臨床神経生理学学会学術大会



Best Poster Presentation Award

外科学講座 橋本 大輔 診療講師

- テーマ LONG-TERM OUTCOME IN PATIENTS WITH MULTIFOCAL INTRADUCTAL PAPILLARY MUCINOUS NEOPLASM WHO UNDERWENT PANCREATECTOMY
- 授与学会 HBP Surgery Week 2022 & The 56th Annual Congress of the Korean Association of HBP Surgery



若手症例報告奨励賞

内科学第三講座 高山 昇之 助教

- テーマ 広範な動脈-門脈シャントによる門脈圧亢進症に合併した食道胃静脈瘤に対して肝動脈塞栓術と内視鏡的硬化療法を併用し著効を得られた一例
- 授与学会 第44回日本肝臓学会西部会



第22回マルホ研究賞臨床研究論文賞

皮膚科学講座 松田 智子 助教

- テーマ Clinical characteristics and treatment of 50 cases of Blau syndrome in Japan confirmed by genetic analysis of the NOD2 mutation
- 授与学会 日本研究皮膚科学会第46回年次学術大会・総会



2021年度がん研究助成奨励金

附属生命医学研究所がん生物部門 田中 伯享 助教

- テーマ 腫瘍浸潤IL-10産生抑制性B細胞の新規分化機構の解明
- 授与学会 公益財団法人大阪対がん協会



学術大会長賞

関西医科大学大学院(リハビリテーション医学講座) 間野 直人 大学院生

- テーマ 成人脊柱変形術後の歩行再建に有用な歩行特徴 ～人工知能を活用した新たな特徴抽出～
- 授与学会 第9回日本運動器理学療学会学術大会





教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。
(主に令和4年1月1日～3月31日 ※判明分のみ)

医学部 健康科学教室 木村 穰 教授	Tarzan (1月27日号)	特集「正月太り、どうしよう?」において、木村教授監修の記事が掲載され、内臓脂肪の危険性や減らすメリット、落とす方法などを解説しました。
医学部 耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座 朝子 幹也 准教授	MBS医のココロ (1月15日)	「アレルギー」シリーズ企画の中で「アレルギーとは?」をテーマとした放送回に出演し、アレルギーが起こる原因、症状、防衛策などについて解説しました。
総合医療センター産婦人科 梶本 めぐみ 医師	NHKテキスト「今日の健康」2月号 (1月21日)	漢方外来について取材を受け、女性特有の病状や処方される漢方薬について解説したほか、体調にあった服薬の仕方を医師に相談することが大切だと述べました。
関医・看護師リカレントスクール	NHK「おはよう日本」 (1月27日)	第5期関医・看護師リカレントスクールでの実習や就職相談会の様子および受講生のインタビューが放送されました。
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授	朝日新聞 朝刊 (1月30日)	埼玉県ふじみ野市で発生した立てこもり事件に関連した記事で、患者からの正当な苦情と全く根拠がない悪質なクレームでは、病院側の対応を変える必要があると指摘し、看護師らが警備会社に簡単に通報できるボタンを携帯するなど医療者の身を守るための対策を講じる必要性を訴えました。
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授	NHK「ニュース7」 (1月30日)	埼玉県ふじみ野市で発生した立てこもり事件の報道にオンラインで出演し、在宅医療では危険な目にあった場合すぐに応援を呼ぶことができず被害にあいやすいことを指摘し、安全対策の必要性を訴えました。
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授	テレビ朝日 「羽鳥慎一モーニングショー」 (1月31日)	埼玉県ふじみ野市で発生した立てこもり事件の報道で、訪問医療時に暴力が相次ぐ理由を解説。また、コロナ禍の感染対策として短い時間で治療を行うため意思の疎通が取りにくいことに触れ、行政には医療従事者の安全対策にも力を入れてほしいと訴えました。
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授	毎日新聞 朝刊 (2月3日)	埼玉県ふじみ野市で発生した立てこもり事件に関連した記事で、理不尽なクレームや暴力で医療従事者が離職することは大きな問題だと指摘し、患者とのトラブルを避け医療行為に専念できるよう、国や自治体によるサポート拡充の必要性を訴えました。
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授	読売新聞 朝刊 (2月4日)	埼玉県ふじみ野市で発生した立てこもり事件に関連した記事で、在宅医療は職員の安全があって初めていい医療ができるとし、安全性が保障されないと今後の担い手が不足する恐れがあることを指摘し、国や自治体によるサポートの必要性を訴えました。
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授	東京新聞 Web版 (2月5日)	埼玉県ふじみ野市で発生した立てこもり事件に関連した記事で、「夜間対応は最小限にしたり、トラブルのある相手には本当に必要な訪問がよく考えて行動する必要がある」と指摘。その上で「安全体制が極めて手薄だ」とし、国や行政に対策の必要性を訴えました。
医学部 腎泌尿器外科学講座 田口 真 助教	Qlife Pro (2月16日)	田口助教らの研究グループが、85歳以上の超高齢尿路結石症患者に対する内視鏡手術の安全性と有効性を示した論文が取り上げられ、患者QOLの向上や医療財政の負担軽減につながるに期待が持たれるとのコメントとあわせ掲載されました。
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授	論座 (2月18日)	埼玉県ふじみ野市で発生した立てこもり事件に関連した記事で、今回は想定外の事件だとしてうえて、国が訪問診療・看護の実態を知ったうえで安全対策について調査し、どうすべきか考える必要があるとコメントしました。
医学部 腎泌尿器外科学講座 木下 秀文 教授	AERA dot (2月21日)	前立腺がん治療についてMOOK本「手術数でわかるいい病院2021」で年代やライフスタイルに合った治療法を担当医師と相談して決定してほしいと治療法について解説した内容が掲載されました。
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授	毎日新聞オンライン (2月24日)	埼玉県ふじみ野市で発生した立てこもり事件に関連した記事で、理不尽なハラスメントで離職する人は各地で相次いでおり、医療従事者が業務に専念できる体制をつくらなければならないと指摘し、そのコメントが掲載されました。
医学部 神経内科学講座 近藤 啓之 診療教授	読売新聞 朝刊 (2月24日)	多発性硬化症を取り上げた記事の中で、「多発性硬化症になっても、何もできなくなったと思う必要はなく、治療の進歩によって依然と同じような生活を続けられる人が増えている」とコメントしました。
医学部健康科学教室 木村 穰 教授	テレビ大阪「やさしいニュース」 (3月1日)	座ったままで運動ができる「腰掛タップダンス」の効果について解説。計測の結果早歩きで歩く以上の運動強度があり、また頭を使いながら運動することで高齢者の認知症予防またフレイル予防にも効果があるとコメントしました。
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授	毎日新聞 朝刊 (3月3日)	埼玉県ふじみ野市で発生した立てこもり事件に関連した記事で、理不尽なハラスメントで離職する人は各地で相次いでおり、医療従事者が業務に専念できる体制をつくらなければならないと指摘し、そのコメントが掲載されました。
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授	NHKラジオ第一「NHKジャーナル」 (3月16日)	「在宅医療現場のリスク」をテーマにしたコーナーに出演し、埼玉県ふじみ野市で発生した立てこもり事件に関連して、在宅医療での職員の安全確保に対する取り組み、費用面での課題について述べ、社会全体の課題として関心を持ってほしいとコメントしました。
医学部 外科学講座 関本 貢嗣 教授	関西医事新報 (3月20日)	関本教授のロングインタビューが掲載され、外科学講座の特長、地域医療での役割や人材確保、今後の課題などについて語った内容が紹介されました。
看護学部 精神看護学領域 三木 明子 教授	神奈川新聞 Web (3月30日)	訪問看護における安全対策を取り上げた記事の中で、訪問診療が普及する一方、職員の安全対策は手薄なままだったとし、この業界を目指す若者を減らさないためにも対策が必要と指摘しました。

《新型コロナウイルス感染症関連》

医学部 内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「よんちゃんTV」 (1月6日・11日、2月10日・16日・23日、3月1日)	総合医療センター 大阪コロナ重症センター	NHKニュースほっと関西、 ニュースウォッチ9、手話ニュース (2月14日)
医学部 内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (1月7日、2月2日・9日)	医学部 衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	読売新聞 朝刊 (3月13日)
医学部 内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	産経新聞 (1月15日)	医学部 救急医学講座 (総合医療センター救命救急センター長) 齊藤 福樹 講師	NHK「ニュースほっと関西」 (3月30日)
医学部 内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日新聞 WEB版 (1月19日)		
医学部救急医学講座 中森 靖 診療教授	読売新聞 朝刊 (2月3日)		

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

寒い季節が過ぎ、暖かい日が続くようになりました。街には新入生や新入職員と思われる姿が見られ、春だなあと感じます。同じような制服やスーツを着ているはずなのに、あの初々しさはどこから出ているのだろう、と毎年不思議です。

さて、本学では待望の光免疫医学研究所が開設し、関医タワーもいよいよ始動しました。広報スタッフとして学内のたくさんのスタートに立ち会うことができ、これからの成果や新たな取り組みに期待が膨らみます。広報誌ではそんな関西医科大学の活動を今後もお伝えしていきますので、新年度もよろしくお祈りします。(も)

関西医科大学広報 Vol.57

発行 学校法人 関西医科大学
編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2638

https://www.kmu.ac.jp/
E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

令和4年4月28日(木)発行